わたしが変わる。
未来が変わる。
girl scouts

5 ジェンダー平等を実現しよう

「ジェンダー」に関する女子高校生調査報告書 2020

～ 声をつなぐ ～

もくじ

はじめに―100年も待てない！ 3

調査のねらい―声は聞こえますか？ 4

高校生による分析と報告会 6

アイコン説明・キーワード 7

調査概要 8

1.女の子だから 9

力仕事は誰の仕事？ 13

大学生になるともっと増える「女の子だから」 14

中学生が言われている「女の子だから」 15

2.先生の言葉がけ 16

子どもたちが学校で目にする風景 21

先生のジェンダー観 22

わかりやすい性差別とわかりにくい性差別 23

3.女の子の中にある無意識の偏見 24

日本の女子 理数系の力は世界トップレベル 26

女性教員の割合・先生はどう思う？ AIは男性？ 27

行儀がよいことを求められる女子 28

無意識の偏見とは 29

4.日常生活で受ける差別や暴力 30

女の子の自己肯定感 34

スポーツに参加する機会 35

5.メディアが与える影響 36

6.女性の指導者が増えない理由 40

各分野の「指導的地位」に女性が占める割合 42

7.もっと学びたいこと、考えたい、話したいこと 46

8.すぐにできる「社会をよりよくする行動」 48

9.変わるべきこと 50

10.私とジェンダー　生活をふりかえる 53

考察 ―「女の子だから」は可能性を奪う 55

あとがき 58

「ジェンダー」に関する女子高校生調査 とは

ガールスカウト運動は世界152の国と地域に広がる、世界最大の女性のための社会教育団体です。2011年から、少女や若い女性に対する差別や暴力を根絶するために世界中で「Stop the violenceキャンペーン」を展開しています。日本では2012年からデートDVをはじめ、プロジェクトを展開してきました。

少女に対する差別や暴力に向き合うためには、対象となる年代の現状を知ることから始まります。ジェンダーに関する女子を対象とした調査は、女子高校生のジェンダー観や現状がわかるデータを収集することで、現状をとらえ、適切な対策に役立てるために実施しています。

はじめに ー 100年も待てない！

世界中が新型コロナウイルス感染症に見舞われた2020年。ニュージーランド、ドイツ、フィンランド、台湾等で前例のない状況を、共感と決断力をもって率いる女性指導者を多く目にしました。また、アメリカでは女性初の副大統領が誕生しました。勝利宣言での「私は最初の女性副大統領だが最後ではない」という言葉は、少女たちに勇気と希望を与えました。ロールモデル[1]がいると「自分にもやれる」と思うことができるため、少女たちの可能性は更に引き出されることでしょう。

世界各地でジェンダー平等に向けた歩みが進んでいます。着実に取り組みを重ね、21世紀の間にジェンダー平等が達成できるとする国々があります。その一方で、日本を含む東アジア・太平洋地域では、ジェンダー格差の解消には165年[2]かかるという試算があります。

日本では2003年の小泉政権時代から、「2020年までに女性管理職割合を少なくとも30%に」という政府目標がありました。しかし、その目標は達成されなかったばかりか、特に政治参画においては、2020年の衆議院議員の女性比率は10%[3]にとどまり、世界166位[4]とG20の中で最低です。日本のジェンダー格差解消に向けた歩みは遅く、2020年に男女格差が大きい国121位[5]となったことは各方面に衝撃を与えました。

日本でジェンダー平等が実現できるのは一体いつになるでしょうか。100年後？ それとも200年後？当然のことながら、そんなに長く待っていられません。社会は私たち一人ひとりの幸せや願いを実現するためにあるものです。

社会は変わるものではなく、変えるものです。変えてきた人たちがいます。近年は、ジェンダーに基づくさまざまな差別を「次世代に引き継ぎたくない」として、行動に起こす人、特に、自分ごととして積極的に声を上げる20代の女性が目立ちます。そしてジェンダー平等に向けた取り組みが加速すれば、その日は確実に早く訪れます。

ここに10代の少女たちの声、未来の女性たちの声を加えませんか。彼女たちの声はこの歩みを速める推進力になるはずです。

1.具体的な行動の規範となる人
2.Global Gender Gap Report 2021（世界経済フォーラム）
3.令和2年度 女性の政策・方針決定参画状況調べ（内閣府）
4.Women in Parliament in 2020 (列国議員同盟)
5.153国中 Global Gender Gap Report 2020（世界経済フォーラム）・2021年は、156カ国中120位

調査のねらい ー 声は聞こえますか？

私たちの価値観や認識は、意識する・しないに関わらず、さまざまなものから構成されています。子どもたちは、生活の中心となる家庭や学校から、ジェンダーに関する価値観や規範を学びとっていきます。基本的な価値観は思春期から20歳頃までに形づくられるといいます。そして子どもたちは、身の回りのしくみや環境を自分で自由に選択できるわけではありません。

2019年に実施した「ジェンダーに関する女子高校生調査2019」では、少女たちが多くの差別や暴力に囲まれて生活していることが数値化されました。顕在化した深刻な状況は多くのメディアやSNSで話題になり、若者たちの声を聞くことの意義が広く認識されました。この調査では、ジェンダーが少女たちの可能性を妨げている原因になっていることはわかりましたが、彼女らが感じている不安や悩みを把握するにはまだ十分とは言えません。
また、「ジェンダーについて考えたことがない」「質問の内容がわからない」というコメントも多く寄せられ、考える機会を与えられていない少女たちがいました。

そこで2020年の調査では、「隠れたカリキュラム」（7ページ参照）や身体的性別に基づく声かけがどのようにされているかを把握しようと、**「女の子だから」**をキーワードに、少女たちが日常生活で経験する差別や暴力について無意識に感じていることも含め、可視化することを目指しました。それとともに、ジェンダー平等実現に向けた女子高校生の問題意識を理解することもねらいとしました。

調査では、「女の子だから」という理由で、47%の少女が、日々の活動に制限を受けたり、不平等や不公正を感じたりしているという結果になりました。また、37%が「学校の先生の言動にジェンダーの偏りを感じる」、共学校に通う54%が「教師の期待や言動等は男女で異なる」と感じています。学校で性別役割分担がおこなわれ、ジェンダー規範に基づいて、活動機会が制限されています。自由記述には「リーダーシップをとらなくてよい」「スポーツや進路をあきらめた」「家事を期待される」「荷物運びはしなくてよい」といった、チャレンジする機会が限定的で、枠にはめられている女子高校生の姿が見えました。

また、「メディアで男女が平等に描かれている」と思うのは8%、「テレビでもっと多くの女子スポーツが放映されると、スポーツをする女子が増える」と思うのは78%など、現在のメディアの姿勢に疑問を呈する少女が多くいることが改めて認識されました。
社会では、「女性活躍」「男は仕事、女は家事という価値観は古い」というメッセージが伝えられています。その一方で、現実には性別によって役割に偏りがあったり、メディアでは女性が映らない、十分な尊重がされていない描写がされることは、女子高校生を不安にし、困惑させているようです。

回答者の96%以上は、女子の大学進学や経済的自立に価値をおいています。その一方、「女の子は料理ができてあたりまえ」「理系は苦手」と感じている割合がそれぞれ44%、48%となりました。「男女は平等だ」と理解し、自由に自己実現ができる未来を希求する反面、「女子はこうあらねば」というメッセージを内在化していました。少女たちが社会のしくみや環境、価値観などから無意識に影響を受け、自由な発想や自発的な行動を阻害しているという事実が数値で示されることとなりました。

現在日本で女性管理職割合が低迷する主な理由として、少女たちは、伝統的な性別役割分担意識や、女性に機会が与えられていないこと、女性は非難されやすいことなどをあげ、変革を求める声も多く寄せられました。

そして、女性が増えてほしい分野として、72%の少女が政治分野を上げ、社会のしくみの改善を求めています。何より、自由回答に記載されたコメントの多さは、ジェンダー平等の早期実現を求める意思表示ともとれるものでした。

昨年度の調査と比べ、今年は自由記述に対して非常に多くの声が寄せられました。そこには少女たち一人ひとりの毎日の生活で起きたことや感じたことが詰まっています。彼女たちを過小に評価し、無力化し、可能性を奪う現実が多く記載されていました。

同時に、ジェンダー格差の解消を求める声も多くありました。スペースの関係から、この報告書には一部しか掲載できませんが、彼女たちの声を余すところなく届けるため、すべての意見をウェブページで紹介しています。ぜひ、一つひとつの声に耳を傾けてください。

少女たちの声は社会の鏡です。彼女たちの声一つひとつと、その声が生み出された社会のしくみや価値観の両面に注目していただくと、ジェンダー問題の構造に対する理解が一層進むに違いありません。声を理解し、伝えていくときにお役立ていただくことを願っています。

高校生による分析と報告会

今年の調査分析は2段階でおこなっています。まず、全国の女子高校生を対象にアンケートをとり、分析は当事者性をより重視し、女子高校生たちがその役割を担いました。全国から応募した9人のガールスカウトたちは、8月から2カ月間にわたり、調査分析をおこない、2020年10月11日、国際ガールズ・デーに報告会を開催しました。また、男女共同参画第5次計画案で募集されていた、パブリックコメントを提出しました。

- 報告会の構成
  - ・メディアやインターネットから見たジェンダーとその問題点
  - ・日常の場面で「女の子だから」という言葉から受ける期待や制限
  - ・私たちの声ー社会をよりよくするために私たちにできること

- ガールスカウトの高校生9人（福島県・東京都・静岡県・岐阜県・鳥取県・福岡県・沖縄県）

- 報告会の動画をYouTubeでみる

  https://youtu.be/sc-iy5IGcHg

差別があるという事実を知ってほしい

「メディアで男女平等に描かれているか」という問いに対する「わからない」という32%の意見。

メディアの当たり前は常識で、社会では確実に正解であるかのように扱われている。しかし、私たちはテレビやネットの作られたイメージや固定観念にとらわれてないだろうか。

「女の子だから」と何か理不尽なことを特に感じたことがない53%の女子高生。これは男女の区別や、社会の性差、差別がなくなっていることを表しているのだろうか。

アンケートの「差別を感じている」と答えた女子高生を少ないと感じるのか多いと感じるのかは人それぞれで、何を差別ととるかも人それぞれである。

しかし、「自分にとってこれが普通だから」という潜在的な意識が差別をなくせていない要因なのかもしれない。意識をしているから、差別が生まれるんだ。 そんな意見もあるかもしれないが、差別があるから意識せざるを得なくなっている事実を知ってもらいたい。

（17歳）

アイコン説明

- **Voice**
  調査を分析した高校生の声

- **Voice**
  調査に寄せられた女子高校生の声

- **Insight**
  ものごとの本質を考えてみる

- **Update**
  ジェンダーに関するデータ

キーワード

- **ジェンダー**
  社会的・文化的につくられる性別のこと。性別による役割を期待されたり、評価される基準が決まったりしている。

- **隠れたカリキュラム**
  学校には「公式のカリキュラム」として教育する側が明示的に教える内容以外に学校生活、学校制度、教師の言葉や態度などを通して、子どもたちが学びとっていく規範や価値観、信念などの「隠れたカリキュラム」が存在する。持ち物の色指定、性別の科目や活動、ステレオタイプに基づく声かけの違いなどを通して、子どもたちはいろいろなことを学び合い、影響を受けている。 16ページ

- **敵意的性差別と好意的性差別**
  性差別には、敵意的性差別と善意的性差別の2つが存在する。敵意的性差別とは、女性に対して露骨で否定的な態度を示す性差別で、好意的性差別とは、一見女性に対して配慮のある好意的な態度を示しているようにみえるが、伝統的な性別役割を固定化するものである。 23ページ

- **無意識の偏見**
  自分では気付いていない、偏ったものの見方や思い込みのこと。 24ページ

調査概要

調査対象：全国の女子高校生
調査期間：2020年6月12日～7月14日
調査方法：インターネット回答 全47問（選択41問・記述6問）
回　答　数：700人　ガールスカウト会員468人（67%）・一般232人（33%）
　　男女共学 596人（85%）・女子校 98人（14%）・その他 6人（1%）

自由回答形式の質問に対する回答は、回答の要点ごとに集計、分析し分類ごとに主な意見を掲載しています。意見の掲載に当たっては、多くは原文のままとしていますが、一部には回答の本旨を尊重、反映できるように配慮しつつ必要に応じて言葉を追加したり、表現を整えたり、要約しているものもあります。

● 女子高校生調査2020の自由回答掲載ウェブページ

https://bit.ly/2QPdF0V

1．女の子だから

何気なく放たれる「女の子だから」という言葉。少女たちは、どのような場面で、どのような内容を言われているのでしょうか。その現実を浮き彫りにするとともに、少女たちの行動や気持ちに与える影響を考えます。

「女の子だから」という理由で、「何かをあきらめた」「やらされた」「しなくていいと言われた」、または「不平等や不公平を感じた」という経験があると回答した女子高校生たちは 47% になりました。

「女の子だから」という理由で
何らかの制限をうけたことのある女子高校生

47%

複数回答可

何かをしなくていいと言われた
29%

何かをやらされた
15%

不公平・不平等を感じた
24%

何かをあきらめた
11%

「女の子だから」という理由で、経験したこと

具体的な内容を尋ねると、大人社会の縮図ともいえる光景が見えてきます。

何かをしなくていいと言われた

- 力仕事
- 行事の片付け
- 入学式や卒業式の準備の椅子運び
- 物の片付け
- 学校の行事での力仕事は男子の仕事なのでやらなくていいと言われた。
- 重たい荷物を運ぶこと。運んでくれたのはありがたいが、女子でもこのくらいは持てる！と思ってしまった。
- やれるのに「やらなくていいよ。男子がやってあげて」と言われてしまうことがある。
- 「本気で進路を考えなくていい」と言われた。

何かをやらされた

- 調理実習などのとき、女子に任せっきりにされた。
- 調理実習で、女子は男子より料理が得意という男子の偏見で仕事のほとんどを女子がやらされた。
- 家事
- 家の手伝い
- 料理
- 会食での給事
- 足を開いて座らないこと
- 行儀をよくする

何かをあきらめた

- 職業選び
- 海外留学
- 警察官になること
- 水産系の高校への進学「男子ばかりの高校になるのでやめなさい」と言われた。
- 部活に入ることを諦めた。（男子しか入れなかった）
- 野球チームに入りたかったが、周りに「女の子はやめろ」と言われた。
- サッカーをやめた。
- 応援団に入ること。
- 「嫁にもらってもらわないといけないから、けがしそうな仕事はしなくていい」と言われた。
- 「女の子だから外見も中身も完璧でなきゃいけない」と言われて育った。
- 兄が買ってもらえるゲームを買ってもらえなかった。
- 兄がやっているバスケをやりたいと言ったら「女の子なんだからやめなさい」と言われた。
- 遊び。性別が女ってだけでダーツもダメ、ビリヤードもダメ。女はホラー映画を見てはいけない。何故？ホルモンバランスと性器以外何も変わらない同じ生き物なのに。
- 結婚願望がないけどそれを口にしづらくなった。

少女たちの日常には「女の子だから」何かをあきらめたり、強制されたと感じる経験がたくさんあるようです。
あきらめたり強制された内容を「不平等や不公平」と重ねて訴える声も多く寄せられました。

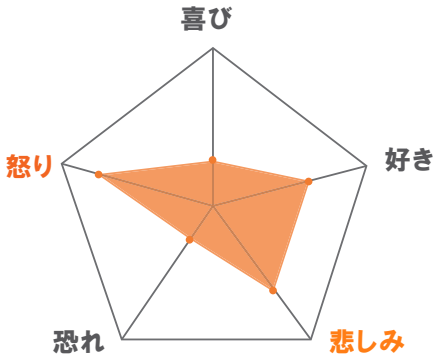
- 生物の授業で「男子なら分かると思うけど」「女子には分からないか」と言われた。
- 人前でリーダーシップを十分に発揮すること。
- 男子だけゴルフの授業で女子は体操の授業がある。
- 進路の話で先生が、「工業系の学校は女の子あんまりいないからそんなに考えなくていいかも」と、クラス全員の前で言った。
- 女子の制服の決まりごとが多いこと。
- 体育祭の応援で、副組頭に立候補したら、「あなたは女だから応援団員になりなさい」と言われて諦めた。
- 生徒会などの代表は男子が優先されると感じたため、代表に立候補することを諦めた。
- 女子は男子より頭が悪いということをほのめかされた。
- 行事の準備で、自分にもできる作業を「力仕事だから女の子はしなくていい」と断られた。
- 「女の子だから行儀を良くしなさい」「お手伝いしなさい」と言われて不公平だと感じた。
- 理系の大学を選ぶこと
- クラス分の教科書を運ぶとき男子が集められた。不公平だと思った。
- 職業を選ぶとき、周囲から反対された。
- 「格闘技は男子っぽい」と言われた。
- 「お手伝いしなさい」と言われた。
- 「女の子なんだからお行儀良くしなさい」と言われた。
- 家でセクハラの報道に文句を言うと「しょうがない」と流された。
- 家に母親がいないときは台所仕事はすべて私がやらされる。
- 「家事は女がやるものだ」と言われた。
- 兄は家事を手伝っていないのに私と姉はほとんどの家事を手伝わされる。
- 痴漢やセクハラがあるから、常にビクビクしながら過ごさなければいけないこと。

女子高校生調査2020　自由回答

少女たちの声を分析すると、怒りと悲しみでいっぱいでした。

「女の子だから」の自由回答には、多くの声が届きました。
その声には、怒りと悲しみの感情があふれていました。

荷物運び
しなくていい
女の子だから
重い
任す
学校で
日常生活
進路
諦める
男子は荷物運び
先生は女子にやさしい
男子には厳しい
女子は調理実習
力仕事
家事をさせられる
ダメ
セクハラ
職業を制限される
服装
行儀よく
お手伝いしなさい
応援団
女子もできる



文字の大きさで声の内容と量のイメージを表現しました。
右の図は、声にこめられている感情を分類したものです。

Insight

力仕事は誰の仕事？

教科書を運ぶ、行事の準備、椅子並べなど、学校ではいろんな「力仕事」があり、多くの場合生徒が担っています。アンケートでは、「力仕事は男子の仕事」と認識されているという声が非常に多くありました。女子校では当たり前のことですが、教科書や椅子運びをするのは女子生徒です。女子しかいない環境では、役割や仕事の担当を身体的性別で決めることはありません。

けれども、共学だと力仕事は男子の仕事になるのはなぜでしょうか？ 男女間の体力的な差をその理由にあげることがよくありますが、女子校ではそれらは女子がおこなっているため、共学校の女子にできないとは考えにくいです。男子の中にも体力や体格の差があるのに、なぜ「力仕事＝男子」という役割分担がされるのでしょうか。

「女の子だから」の質問の自由回答で最も多いものは、力仕事・荷物運びなどで、全体の約3割を占めました。力仕事を「しなくていいこと」にあげた記載はたくさんありましたが、「手伝いにくかった」「できるのにさせてもらない」ことなどから「不平等・不公平」というカテゴリーであげた記載も複数ありました。

「男子がしてくれるなら任せておけばいい」「力仕事ぐらいでいちいち言わなくても」という意見があるかもしれません。けれどもそれが、「性別で役割を決めることは当然」という意識につながっているかもしれません。

一方で、男性からは、「力仕事や危険な仕事は男の仕事」という決めつけに、生きづらさや不便を感じるという意見[6]が年代を問わず見られます。男性にも得手不得手もある中、女性が多い職場、例えば保育園では、男性保育士に力仕事や修理作業などが求められ、「男性がやって当然」という女性の態度に抵抗を感じるという人もいるようです。

性別で役割を決めるのはおかしい

私は以前は共学、今は女子校に通っています。共学にいたときには、重い荷物を運んだり、応援団長などを担うのは男子であるという縛りを常に受けていました。女子校では、すべて女子でやらなくてはいけない環境の中で、学校生活だけでなく、社会も男、女という縛りではなく、一人の人として役割を担うべきであると思うようになりました。

（16歳）

もちろん、男子も男の子だからという理由であきらめたことがある人がいると思います。
さらに男子は力仕事を男子だからという理由で任せられることが多いため、不平等や不公平を感じる人は多いのではないでしょうか。

（17歳）

---

6. LEAN in Tokyoやホワイトリボンキャンペーン・ジャパン、朝日新聞等が、「男らしさ」の規範によって男性が抱える、生きづらさについて調査をおこなっている。

Insight

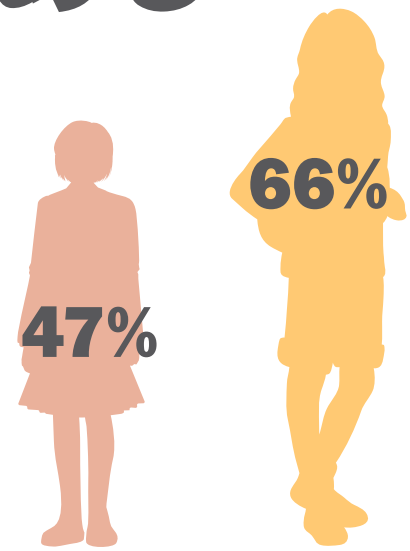
大学生になるともっと増える「女の子だから」

この報告書をご覧になっているあなたは、「女の子だから」「男の子だから」と性別を理由に、「何かができなかった」「あきらめた」ことはありますか？

9ページと同じ質問を女子大学生にしたところ、66%の人が「女の子だから」という理由で不利益や制限を感じたことがあると答えました。高校生たちは47%で、高校生と大学生の間には差があります。この差はどう解釈すればいいのでしょうか。

「女の子だから」という理由で、何らかの制限をうけたことがあるか？

ある



何かをやらされた、何かをあきらめた、何かをしなくていいと言われた、不公平・不平等を感じたのうち、いずれかを選択した数（複数回答可）

女子大学生

何かをしなくていいと言われた **37%**

不公平・不平等を感じた **38%**

何かをやらされた **29%**

何かをあきらめた **15%**

女子大学生×ジェンダー調査報告書 2020

Insight

中学生が言われている「女の子だから」

中学生にも聞きました。

- 女子は男子よりかしこくなくては、だめ。
- 「女子やったら、これぐらいのことできるやろ」と、誰でもできる仕事を押し付けられる。
- 女子は学級委員長や生徒会長に向いてない。
- 「パイロットや消防士になりたい」と言ったら、止められたり驚かれたりする。
- 走るのが速いと男子は「すげー」と言われるのに、女子は「怪物やね」と言われる。
- 「女子なのに宇宙飛行士になるのは変」と、自分がなりたいと思っても否定される。

- 女子は重いもの持たんでええよ。
- 女の子なら料理が出来るのが当たり前。
- 女子のくせに、男子より背が高い。
- 女子なら字が綺麗なのは、当たり前。
- 運動は、男子の方が優勢。
- 女子は「くし」や「ハンカチ」を持っていて当たり前。
- 女子は男子よりゲームが下手だと思われている。
- 女の子やから、音楽得意やろ。
- 女子って外で遊ぶんや。
- 女子やのに、がさつやな。
- 女の子は愛想よくしなさい。
- 先生に「お前ら女子やねんから、ちゃんとしろよ」と言われた。
- 書記は女子がする仕事。
- 女子は仕切るな。
- 女子なら、育児をするのは当たり前。
- 女子は家事をして、男子は仕事をするのが当たり前。

中学生向けジェンダー学習会*の事前課題 女子中学生たちの声より

*2019年度 ガールスカウト日本連盟 近畿地区シニア部門事業

2．先生の言葉がけ

学校では、伝える側に深い意図がなくても、生徒はさまざまな価値観や考え方を教わっています。
ここでは教師の言葉がけについての声を集めました。

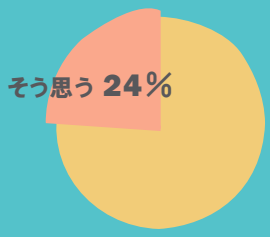
学校の先生は「女の子だから・・・」という固定的な考え方があったり、声かけをしたりする。（共学・女子校平均）

37%

男女共学の場合

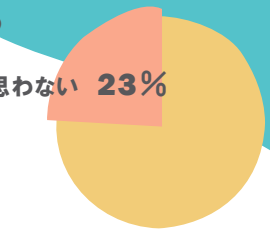
学校の先生は、役割や進路などに対して、女子と男子に異なる期待をしている

そう思う	24%
そう思わない	68%



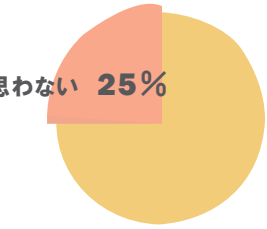
学校の先生は、女子と男子に平等に接している

そう思う	74%
そう思わない	23%



学校の先生は、女子と男子に同じように言葉がけをしている

そう思う	71%
そう思わない	25%



そう思う　　＝とてもそう思う、まあそう思うの合計
そう思わない＝まったくそう思わない、あまりそう思わないの合計

私たちが経験していること

アンケートの数字にあるように、大半の人は「先生はよくしてくれる」「平等に接してくれる」と回答しています。その一方、男女別の期待や声かけについて、次のような声があります。

役割

- 仕事などは男子に任せる先生が多いと思います。
- 重い荷物を運ぶときに、「男子何人か手伝って ー」
- 男子は荷物運びのような力仕事を任されがち。
- 「男子、力仕事たのむで」と言っていた。
- 椅子運びなどは男子がやる。
- 「女の子だから足を閉じ、静かにしていなさい」と言われる。

進路

- 女性に対して、「手堅い資格をとった方がいい、と先生に言われた」と聞いた。
- 女の子なんだから地元の学校行けばいい
- 男子には大学進学を勧めて、女子には就職を勧めるのかなと思う。
- 文系を勧めてくる。
- 進路で男の人は家族を養っていかないといけないから、収入が多いところを勧められたと聞いた。
- 進路についてしっかり相談を受けてほしい。

学校の先生が、「女の子だから」という固定的な考え・言葉がけをしたり、生徒の性別によって期待・声かけ・態度が異なると感じている割合

男女共学では

54%

男女共学の半数以上が、学校の教師は、声かけや接し方が男女で違うと回答

隠れたカリキュラム

学校で教える内容は公式な形で「カリキュラム」として定められています。それとは別に学校には、「あえて説明されることなく、子どもたちが無自覚に学び、身に付けていくもの」があります。そういったものを「隠れたカリキュラム」と呼びます。学校制度、学校生活、教師の言葉や態度などを通して、規範や価値観、信念などを学び取ります。持ち物の色指定、性別の科目や活動、ステレオタイプに基づく声かけの違いなどから、子どもたちはいろいろなことを学びあい、影響を受けています。

私たちが経験していること

リーダーシップ

- 男の子にリーダー的な役割を求めているところがある。
- リーダーシップをとるのは男子だと思っているので、女子がすると驚かれる。
- リーダーに男子を推薦する。
- 私は生徒会長をしていて、今の仕事に責任を持ってそれなりの成果も出しているつもりですが、身長が低く声が高く少しし可愛らしい顔付きをしているせいで、他の生徒よりも扱いが「女の子扱い」な気がするときがある。例えば、「〇〇ちゃん」呼び、必要以上に容姿や所謂「女子力」について言及されるなど。

礼儀

- 「女子だからこの座り方はしてはいけない」「女子は将来はこんな女性になれるように頑張れ」など男女で平等であるべきところで「女子は～」と言われることがある。
- 私は女子校に通っているのですが、正直に言えば私たちはかなりうるさいです。それに対し先生たちからと礼儀正しくいてほしいと期待されている気がします。礼儀正しくいるのは大切だと感じていますが、女子だからそう期待されているのではないかと思う自分もいます。
- 女の子なんだからちゃんとしなさい。
- 大切な式典などのときに「女の子なんだからお行儀良くしなさい」と言われたこと。

学校で

- 家庭科や国語が得意だとされたり、大人しくおしとやかであるべきとされる。
- 保健の授業とかで男子ばかりにあてる。
- 女子でスポーツができる人に「男らしいね。かっこいい」という。
- コロナ禍による分散登校で、たまたま理系のクラスが女子だけの日に、先生が「女子しかいないからクラス間違えたかと思った」と言っていて違和感を感じました。
- 女子と男子では声かけの仕方が違う。男性の先生は女子には優しく、怒らない。
- 意見や仕事を男女で分けようとする。
- 何かグループを作ったり並べたりするときに、男女を必ず区別されてきたなと気付きました。女の子だからというとらわれた考え方で接されていると強く感じました。
- 女子だからという理由で批判されたり、男子に多く期待がかかったりしている気がする。

次のような声も寄せられています。

- スリッパの色が男女違う。出席番号が男女分かれている。
- ネームプレートも男女色が違う。
- 制服でスラックスをはいている女の子が悪口を言われていた。
- 中学生のときに女の子同士で手を繋いでいたら「やめなさい」と言われた。理由はレズビアンだと思われるからということだった。私はレズビアンではないが、LGBTの観点からしてそのような発言は良くないのではと思った。
- 妊娠や生理という言葉が出ると「いつかは妊娠するんだね」などという話をされ、反応に困る。
- 無意識に性的マジョリティーについて「普通」と言ってしまう先生がいる。
- ジェンダーについて少し馬鹿にしながら話すところがありイヤ。

少女たちは、「男子は～、女子は～」と身体的性別に基づくステレオタイプに窮屈さや不快感を感じています。

女子高校生調査2020　自由回答

先生たちに、平等な扱いを期待する声も聞こえてきます。

- 学校の先生も人間だし、いろいろな考えがあると思うけれども、やっぱり子どもを指導する立場だから、学校の先生が見本になってほしい。いろいろな差別やいじめがなくなってほしい。
- 男女で差が出るような言葉がけはやめたほうがいいと思う。
- もっといろいろな考え方があることに気付いてほしい。
- 女子と男子関係なく接してほしい。
- 「男子の～な人、女子の～な人」ではなく、「誰でもいいから～な人」と言ってほしい。
- 女だから出来ないだろうという考えをなくしてほしい。
- 女の子だから男の子だからと言わないでほしい。

> 「男子の～な人」「女子の～な人」ではなく
> 「誰か～な人」と言ってほしい。

進路指導が私たちに与える影響

「女の子と男の子の進路指導に差がある」と答えた人が、24%いることは何を意味しているのでしょうか？

進路指導で、男女に期待されていることが異なり、困っている人もいるのではないでしょうか。このようなことが与える影響はどんなことがあるのか考えてみました。

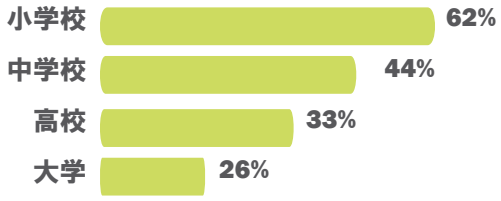
私たちは、やる気や機会が損なわれるのではないかと思いました。また、当たり前だと思っている人もいると思います。例えば、行事の際に、女子生徒は飾り付け、男子生徒は外で準備をすると担当を決められたときに、男子が力仕事をするのは当然で女子はしないのが当たり前と思っている生徒もいます。

女の子たちの中に、こういったことを「違和感なく当たり前だ」と思っている人がいる反面、諦めを持っている人もいるのではないかと思います。

子どもたちが学校で目にする風景

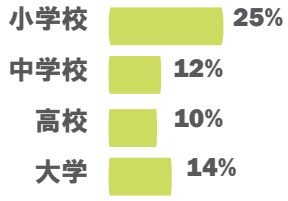
教育段階が上がるほど、女性は少なくなる

女性教員の割合



学校では上司は男性で、部下は女性

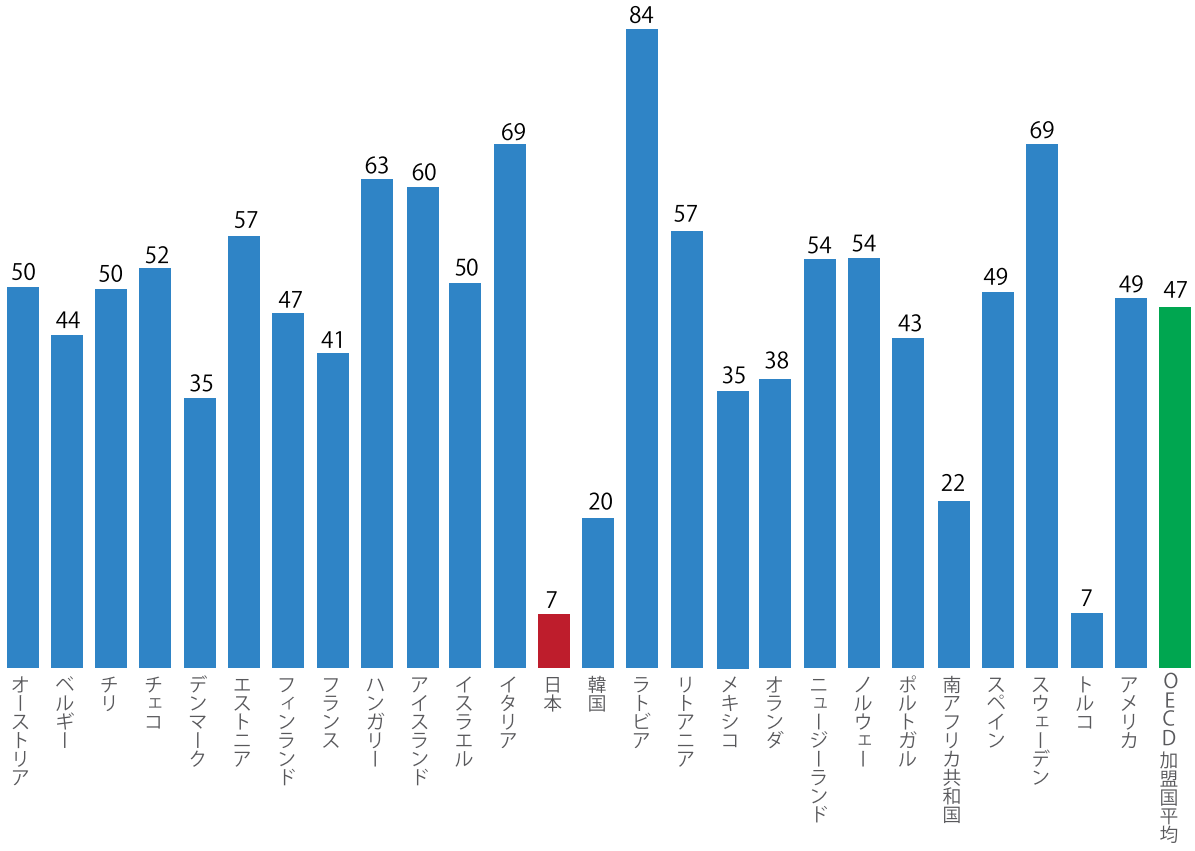
女性校長の割合



学校基本調査 令和2年度より　数は四捨五入

女性校長の割合 – 世界との比較

OECD（2018年）が調査した、中学校の校長に占める女性の割合では、先進諸国の女性校長の割合は平均47%と男女の割合はおよそ同じです。女性校長の割合が20%を切っている国は、日本・トルコ・韓国ぐらいしかありませんでした。



出典：The OECD Teaching and Learning International Survey（TALIS）2018 Results
調査参加国48カ国・地域のうち、OECD加盟国26カ国の値を四捨五入し記載　数字は%

先生のジェンダー観

▶ あなたは将来管理職になりたいと思いますか

女性教員の93％が「なりたくない」と回答

一方、「なりたい」「できればなりたい」と回答したのは、女性7%・男性29%だった。
なりたくない理由として、女性は男性と比べ、育児等の家庭生活の役割との両立が困難であることや、力量不足と認識していることを理由としてあげている割合が高い。

▶ 男性のほうが女性よりも管理職に向いていると思う

女性教員の30%が、「 そう思う 」「 ややそう思う 」と回答

一方、男性は 21%だった。女性自身が、女性は管理職には向いていないと考えている。
また、男女ともに、若い教員ほど「そう思う」割合が高い。

▶ 家事・育児などは、女性の役割

女性教員の79%が、「ほとんどしていた（いる）」と回答

一方、「ほとんどしていた（いる）」と回答した男性教員は、4%だった。
女性教員の多くは、自分の子どもが小学生までの時期に学校での仕事以外に家事・育児等、家庭生活の役割を多く担っている。一方、男性教員は家事・育児などはほとんどしていない。

▶ 家事・育児は女性の方が向いている

女性教員の43%が、「 そう思う 」「 ややそう思う 」 と回答

一方、「そう思う」「ややそう思う」と回答した男性教員は、56%だった。
男性の方が伝統的な性別役割分担を重視している。また、若い女性教員ほど「そう思う」割合が高い。

先生の「女性は管理職に向かない」「女性は家事育児が向いている」という価値観は、生徒にどんな影響を与えるのでしょうか。
先生たちも社会の一部。先生たちの価値観は社会を映しているのでしょう。

国立女性教育会館 学校における女性の管理職登用の推進に向けて 令和2年3月刊行より

Insight

わかりやすい性差別 と わかりにくい性差別

「女は能力が低い」「女性には重要な仕事は任せられない」「はっきりものを言うなんて、女のくせに生意気だ」などが性差別であることは明らかです。

こういったあからさまな形で、伝統的な男女の役割意識に沿わない女性に敵意や反感のこもった見方をするものを**「敵意的性差別」**と言います。これは多くの人にわかりやすいですから、反論しやすいものです。

一方、次のような主張を聞いたことはありませんか。

「女性は育児があるから、責任が重い仕事をさせるのは気の毒」
「男女にはそれぞれの特性があるのだから、それを生かしていこう」
「女性だと受付が明るく華やかでいい」
「ハードな仕事を女性にさせるのは気の毒だよ」

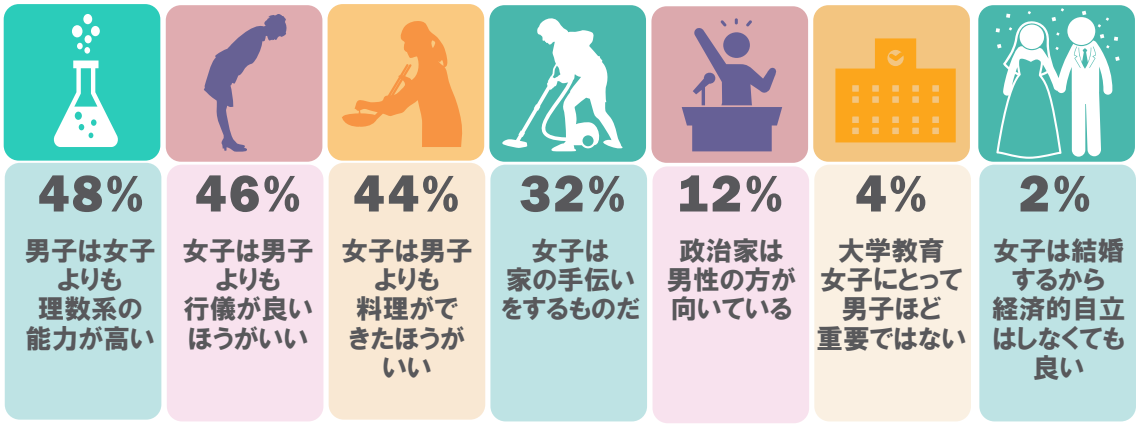
こういった言い方は一見女性に好意的で、女性を労わり、配慮をしているように聞こえます。これは**「好意的性差別」**（慈悲的性差別、とも言う）と言います。女性を弱く限定的な役割に押し込めて、「女性は家事や育児が優先」「職場でも女性は気配りをして当然だ」「責任ある大事な役割は男性がやる」という意識につながっていきます。

少女や女性にもできることはたくさんあります。チャレンジするからこそできることが一つずつ増え、成長し、自信につながります。けれども、**「好意的性差別」**を受け、「無理じゃないか」「やらなくていいよ」などと言われると、チャレンジする気持ちや成長する機会を失います。また、いつまでも人に頼り、主体的に物事に取り組む姿勢が養われません。チャレンジしない、人任せ、期待されない、学ぶ機会が少ないということが重なれば、ますます依存するようになり自尊心が低下する、という負の連鎖が起こります。この**「好意的性差別」**は女性が可能性を伸ばすことを妨げます。

しかし、こういった「好意的性差別」に違和感をもつ女性もいるはずです。なぜ「好意的性差別」を受け入れてしまうのでしょうか。それは、相手は「好意」でしていることも多いため、その「好意」を断ると、「育児がたいへんだろうから、せっかく配慮しているのに」「生意気だ」「かわいくない」などと相手から否定的に受け取られることがあるからです。そういった反撃を恐れ、「好意」を受け入れざるを得ない、言い返せない、ということがあります。また、「女性」であることを褒められたり、言っている方も言われた方も無意識にやっていることが多いので、 そこに性差別があるとは気付きにくいところがやっかいです。

3．女の子の中にある無意識の偏見

ジェンダーについてのさまざまな価値観について、意見を聞いてみました。
女の子に対する社会の期待や価値観が、女の子たちに複雑な影響を与えています。



「とてもそう思う」「そう思う」と回答した女子高校生の割合

半数の少女たちはすでに将来、
経済的自立を果たすことと、家では料理をするということを
「セット」で考えているということでしょうか。

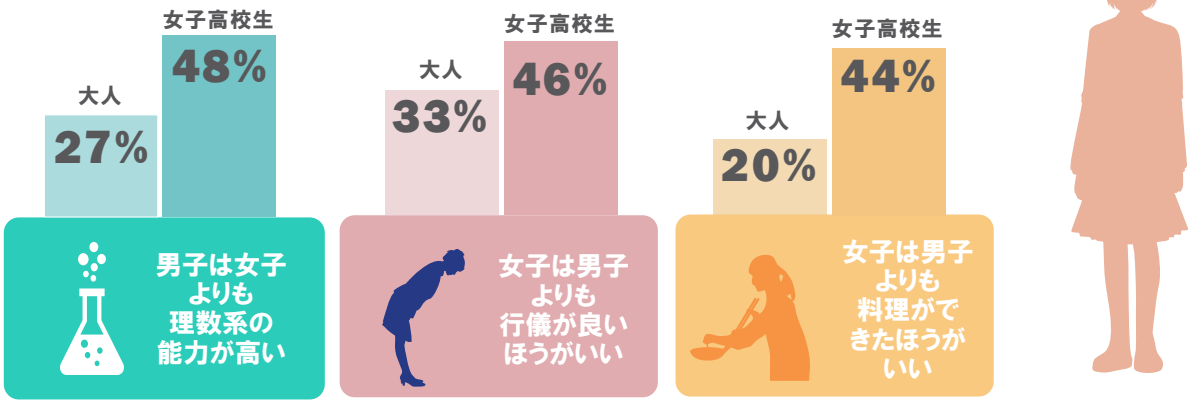
理数系は男子の方が能力が高いと思う女子 48%

「理数系は男子」と思う理由

- 私は中学から高校2年生まで女性の数学の先生に教わったことがなく、知らず知らずのうちに理系は男性が得意なものだと思っていたのかも。
- 社会に理系＝男子というイメージがある。周りの目が気になって自分が理系だということに抵抗があるのではないか。
- 理系の女子が少ない＝女子の理系分野の能力が低いと思うのではないか。
- 男子の方が理系人数が多いから、理系に進む人は理数系ができるので、理系に多い男子は理数系が得意だと思い込んでいる。
- リケジョという名称は差別的な響きがある。
- 女性の医師は女医、理系の女子はリケジョと特別視されていて自分が理系だと言うことに抵抗があるから。
- 理系の先生（数学や理科）は男性のほうが多い。
- 理系になる女子はあまりいないという固定観念がある。
- 理系の職業は男性がイメージされるものが多いから。
- 小さい頃から女の子は絵本・ぬりえをして、DIYなどの技術・工業的なものをやっていないから苦手だと思いがち。

大人と高校生の意識差

大人と比べて、高校生は、伝統的な性別役割や価値観を強く受けているようです。
それはなぜなのでしょうか。



2020年6月 ガールスカウトの指導者や保護者を対象に実施した調査との比較

日本の女子　理数系の力は世界トップレベル

女子高校生の約半数は、「男子の方が理数系の能力が高い」と思っています。では、実際のところはどうなのでしょうか？ 国際学力調査（PISA2018）を見ると、日本女子の理数系の得点は、他の国の男子よりも高く、世界トップレベルということがわかります。

▶ 国際学力調査（PISA2018）から各国の15歳の理数系の点数を男女別に見てみるとわかること

- **科学 ― 日本女子の点数は528点で、OECD男子平均の485点より43ポイント高い。**
  日本女子の点数は、カナダ、韓国、フィンランド、ニュージーランド、イギリス、スウェーデン、ノルウェー、アイスランドの男子より高い。
- **数学 ― 日本女子の点数522点は、OECD男子平均の491点より31ポイント高い。**
  日本女子の点数は、フィンランド、カナダ、ニュージーランド、イギリス、スウェーデン、ノルウェー、アイスランドの男子より高い。

	平均得点（PISA2018） 科学 女子	科学 男子	数学 女子	数学 男子	高等教育で理数系を専攻した割合*	ジェンダーギャップ指数順位
上海（中国）	584	596	586	597	―	（107）
シンガポール	549	553	567	571	0.46	54
フィンランド	534	510	510	504	0.25	2
日本	**528**	531	**522**	532	**0.22**	**120**
カナダ	520	516	510	514	0.34	24
韓国	517	521	524	528	0.32	102
ニュージーランド	508	509	490	499	0.40	4
イギリス	503	506	496	508	0.46	23
スウェーデン	503	496	503	502	0.33	5
ノルウェー	496	487	505	497	0.29	3
OECD平均	490	485	487	491	―	―
アイスランド	479	471	500	490	0.38	1

女子　男子　　女子　男子

世界には、男子よりも、女子の理数系の点数が高い国があります。つまり、男子の方が理数系ができる、ということは世界共通ではありません。そして、ジェンダーギャップ指数が上位の国（男女格差が比較的少ない国）は、特に科学において、女子の点数の方が高い、という傾向があります。

また、高等教育で理数系を専攻する割合は、日本女子は他国と比べて低い割合です。世界的に見て理数系の実力があるにもかかわらず、他国の女子ほど理数系を専攻しないのはなぜなのでしょうか。

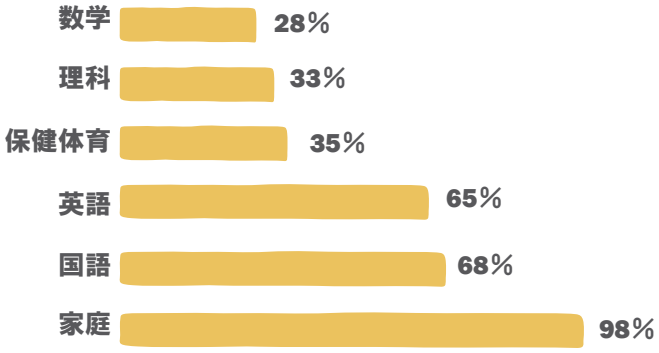
どの国でも理数系に女子を増やすことは課題ですが、欧米では、中高校における女子の「理科離れ」について研究が進んでいます。教授方法や学習活動の形態、男女のグループ分け、教師の固定観念や言動など、多岐にわたる取り組みが見られます。

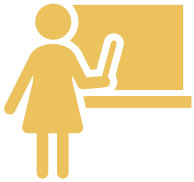
OECD生徒の学習到達度調査2018年度（Programme for International Student Assessment：PISA）
Global Gender Gap Report 2021（世界経済フォーラム）
*男子に対する女子の割合。日本以外はUNESCOのデータから、日本は令和2年度学校基本調査（文部科学省）

女性教員の割合

子どもたちが学校で目にする風景で、理系に女性は少ない。
以下は、高校の女性教員の割合ですが、中学校もほぼ同じ割合です。

高校の女性教員の内訳





文部科学省 平成28年度学校教員統計調査

先生はどう思う？

「理数系の教科は、男子児童生徒の方が能力が高い」と思っている教員

女性 26% ・ 男性 20%

若い教員の方がそう思う割合が高い。

国立女性教育会館 学校における女性の管理職登用の推進に向けて 令和2年3月刊行

AI は男性？

AIが生み出す「差別」は、さまざまな場面で問題となっている。

AIが機械学習で学ぶデータそのものに偏見や差別が含まれているため、AIが出す答えも差別を再強化するものになってしまう危険性をはらんでいるからだ。

差別をはらむAIをどのように変えていけばいいのか。まずは偏見のあるデータをそのまま反映しないよう作り手が多様であることが必須だ。IT分野は女性が少なく、ユネスコの報告書によるとアップルやグーグルなどでも**技術職の8割は男性で、機械学習の研究者の88%は男性だ。**

朝日新聞 2020年10月18日

Insight

行儀がよいことを求められる女子

> **女性は静かにおしとやかでいるべきだといわれたり、やんちゃ坊主という言葉があるように男子は騒がしくても怒られないことがあったりする。**

24ページ「そう思う」の回答にあるように、少女たちは「女の子は行儀良くするもの」と考えています。また、家庭や学校での多くのメッセージを受けており、『行儀は「女の子なんだから」という代表的なもの』という回答もあるほどです。一方、「女の子は行儀を良くするもの」について次のような感想も寄せられました。

> **「女子は男子よりも行儀が良い方がいい」という質問に違和感を感じた。男女関係なく行儀良い方がいいというのは当たり前では？**

一般的に「行儀」とはどのようなことをイメージするのでしょうか。「おとなしくすること」「言葉遣い」「立ち振る舞い」をイメージする人が多いようですが、青少年に育成したい姿勢の一つとして「行儀」は「相手を思いやり、社会生活や人間関係を円滑に営むために必要な立ち居振る舞いや言葉遣いをおこなうこと[7]」と定義されています。

人として求められる資質なのであれば、なぜ、「女の子だから」行儀良く、と言われるのでしょうか。

「女の子だから」が付くときには、座り方や話し方について指摘をされるようで、同じ基準を男子に求めているわけではないようです。

7.独立行政法人国立青少年教育振興機構　発達段階に応じた望ましい体験の在り方に関する調査研究(中間まとめ)　令和2年3月発行

私たちは、こう思う！無意識の偏見がある理由

- 周囲の人から家の手伝いをしなさいといわれたり女性は家事をするものだという考え方がまだあったりする。
- 女子は結婚して仕事をやめ専業主婦になるという考え方が未だにあるため、勉強ができなくてもいいと思われている。
- 女子は静かにおとなしく、男子は働くというイメージが「行儀を良くする」に関係しているのかもしれない。
- 小さい子向けの本などでも親の手伝いをするのは女の子の登場人物が多い。また、家事は女性がするというのもこれが影響しているのではないか。
- 女性しか経験したことがないことなどもいっぱいあるから、一方の性別に偏らず、政治家は均等にいた方がいい。
- 専業主婦やお嫁さんになりたい人は少ないようだ。
- 職業の性別の偏りの象徴と言えるのは政治家だと思う。
- 日本の歴史の総理には女性はまだいない。

Insight

無意識の偏見とは

自分では気付いていない、偏ったものの見方や思い込みのことです。

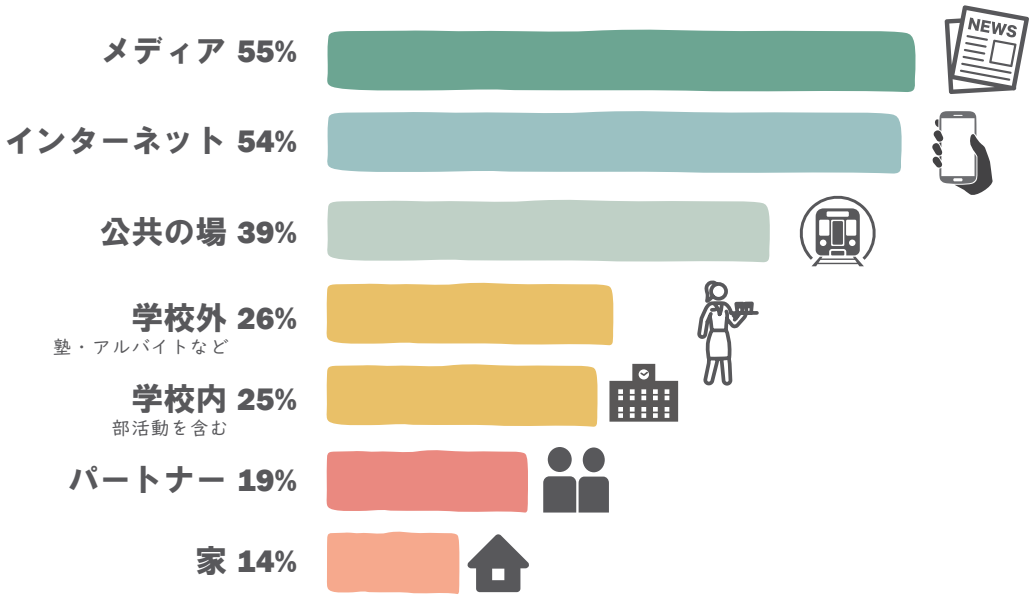
「アンコンシャス（unconscious 無意識）・バイアス（bias 偏見）」とも言い、育ってきた環境、 教育、経験などから影響を受けて、知らず知らずの間に形成されます。

例えば、「女子は数学が苦手」「子育て中の女性は出張できない」「男性は料理は不得意」などが例に挙げられます。無意識の偏見があると、進路や職業選択、採用や昇進などの場面で、本人の意向や能力を無視した決定や選択がされる危険性があります。

無意識の偏見は誰もが持っているもので、意図せずに身に付けてしまっている偏見です。性別や職業、学歴、出身地、人種などを元に、自分が思い込んだ言動をしていないかをふりかえることが大切です。

4. 日常生活で受ける差別や暴力

性的な嫌がらせや差別を経験したり、見たりしている場面



よくある、時々ある、たまにあるの割合

メディア、インターネット、公共の場、学校外、学校内、パートナー、その他の項目の内、性的嫌がらせや差別を感じる場所を聞いたところ、半数以上がメディアやインターネットで経験したり見たりしたことがあると回答しました。

内閣府の調査[8]によると、高校生の97%がスマートフォンを利用しています。「コミュニケーション」90%、「動画視聴」88%の利用が多く、一日当たりの利用時間として6割以上の高校生が3時間以上と回答しています。スマートフォンは高校生の生活の一部で、高校生の毎日はインターネットとは切り離せません。

---

8. 内閣府 青少年のインターネット利用環境実態調査令和2年度版より

私たちが、経験したり見たりする嫌がらせや差別

女子の外見を重視する、イジル

- 見た目が重要視されている。胸の大きさなど。
- よくメデイアで女性の体に対するコメントを見かけます。理想の体型があり、その期待に応えるプレッシャーが女性にある気がします。ですが男性はそのような期待はないのではと思います。
- スレンダーではない体型の女性芸能人などがネタにされている。
- バラエティで、女性タレントの容姿について批判する。
- 女性芸人のほうが男性の芸人に容姿でいじられているのをみた。バラエティ番組などで笑いをとるために、ぶさいくやな、などと言っている。
- 女芸人のほとんどが女性であることをネタにしている。（女子あるあるや容姿など）
- 胸が大きい人に対しての嫌がらせや嫌な言葉。
- 男性の露出に対しては何も言わないのに女性が露出の多い格好をしているとそれを話題に出す。

広告全般

- YouTubeの広告で女性の美容に関連するもの、及び容姿（色白、痩せているなど）の押し付け、美意識への固定観念などを感じる。
- ウェブサイトでの性的な広告は元々多いが、最近某動画サイトでの広告に女性の容姿に関する酷いものが多いなぁと感じている。（浮気した男が、太っているお前が悪いと主人公に言って〜とか）
- SNSの広告やYouTubeの広告でデブやブスから美人になるような広告が流れる。
- ホームページやYouTubeの広告・インターネット上の漫画の広告など

性的な広告や投稿

- ネット広告に見たくもない性的描写が出てきて不快な思いをした。
- 絶対にR18だろうゲームの広告が平然と流れる。
- 掲示板、Twitterで、性的な広告が出てくる。
- 性的な動画や写真がInstagramなどで流れてる。
- 女性の体を映すような広告や投稿がある。
- 投稿のコメント欄などで身体について触れられていたり、下品な言葉を使ったコメントがある。
- InstagramなどのSNSで見知らぬ人から性的な写真や言葉が送られてくる。

女性をバカにする

- 公共の場やネットで、「男は偉いから女は遠慮すべきだ」という考えが見て取れる態度の人をたまに見かける。
- 女性有名人は男性有名人よりも炎上しやすいことを指していると思う。これは女性のくせにえらそうなことを言うなよというような間違った価値観にも影響しているのではないかと思った。
- 「女のくせに」とか性別で差別するアンチコメント。
- テレビなどで女性が軽く見られていると感じる。
- 報道などで女性政治家に対するコメントが厳しく感じられる。
- Twitterで女性差別などのツイートが拡散されているとき、リプ欄を見ると女性を卑下した発言をたくさん見かける。
- インターネットなどで男女で論争が起きることがしばしばあり、差別的な発言が見受けられることがある。
- SNSで、女は頭が悪いというイメージを持っている人を見かけた。
- Twitterで「女性が家事をやるべきだ」という内容のツイートを見かける。
- 狙っている人と悪気はない人がいるがTwitterで下ネタを言われて絡まれる。

性暴力の被害

- ニュースで報道される女子への性暴力
- 男女問わずSNSなどで自分が受けた性被害の体験談を投稿していらっしゃる方が大勢いるので、頻繁に目にする。

パートナー

- 遠距離の彼氏からテレホンセックスを無理やりやらされました。
- おごろうとしてくる。

公共の場で

- 交通機関や通学路など公共の乗り物においての痴漢。
- 繁華街が多いと思います。夜が多いと思います。
- ナンパで「やめてほしい」と言ったら、女だから仕方ないと言われた。
- 「女の子は将来結婚して子どもを産むんだから貯金大事」的なこと言われた気がする。バイトの先輩だし、気にせず「そうですかね〜っ」て流したけど。
- 居酒屋のバイトでしょっちゅうおしりを触られる。

学校で

- 先生に肩をさわられる。
- 男の子は、どこでも下ネタを言いたがる印象がある。それで盛り上がっている。
- 男子から胸の大きさをからかわれた。
- 部活で女子が役職についたり意見を言うことを好まない男子生徒がいる。
- 制服の着方について男子から「こうあってほしい」と文句を言われる。
- 仲良くない同級生に「胸意外とあるね、カップ何？ Bとか？」などと聞かれることがあった。

家で

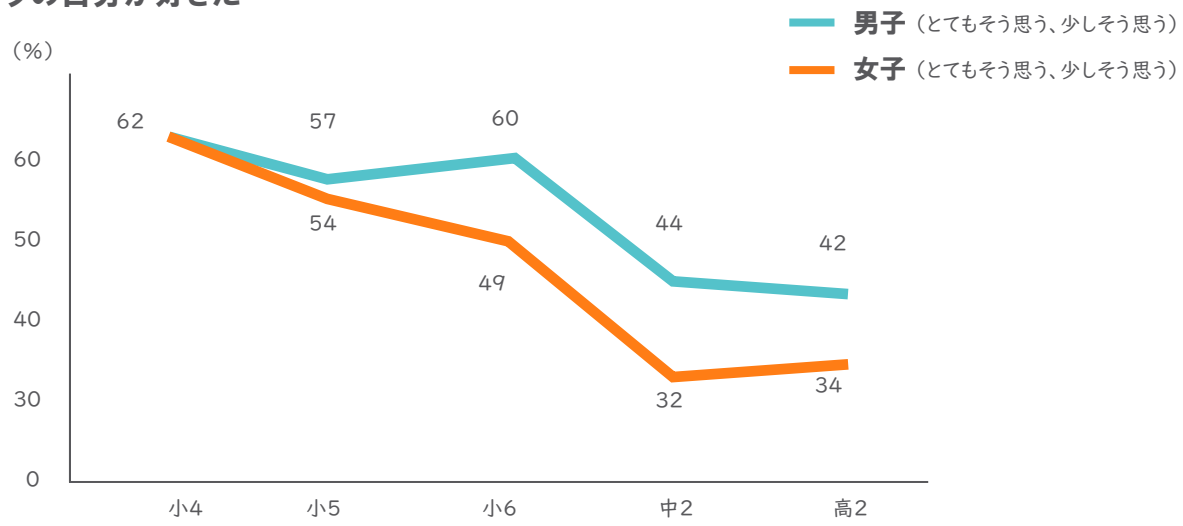
- 家で自分だけ家事をするとき。
- 「女の子だから、字を綺麗に」字は綺麗に書いた方が良いが、性別は関係ない。
- 女の子だからちゃんとしないと的なこと。
- 女子だから制服はキレイに片付けなさい。
- 女は家庭を守り、男は仕事に行くべきという悪習。
- 父親や兄が戯れる風に触られたくない部分を触ってきた。
- いい年してる大人が小さい子どもに暴力をふるう。

女子高校生調査2020　自由回答

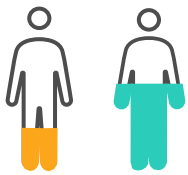
女の子の自己肯定感

小学校4年生では、「今の自分が好きだ」と答える小学生は男女とも同数です。
しかしこれ以降、女子の数値は男子とは違う変化をたどり、下降していきます。

今の自分が好きだ



あなたは、自分の体形にどのくらい満足していますか



女子 **23%**　　男子 **46%**

満足している、まあ満足の合計

あなたは、最近一年間でストレスを感じたことがありますか

女子 **84%**　　男子 **67%**

よくある、ときどきあるの合計

国立青少年教育振興機構調査　青少年の体験活動に関する意識調査平成28年度　より

スポーツに参加する機会

女子がスポーツに参加する機会は、男子より少ないことが明らかです。それはなぜでしょうか。

運動部の数が少ないから参加する女子が少ないのか、それとも参加する女子が少ないから女子部の数が少なくなるなるのか、どちらでしょうか。

女子部の数は、男子部の 86％

運動部数：男子部 43,168　女子部　37,083

公益財団法人全国高等学校体育連盟（高体連）令和2年度の加盟登録状況数より

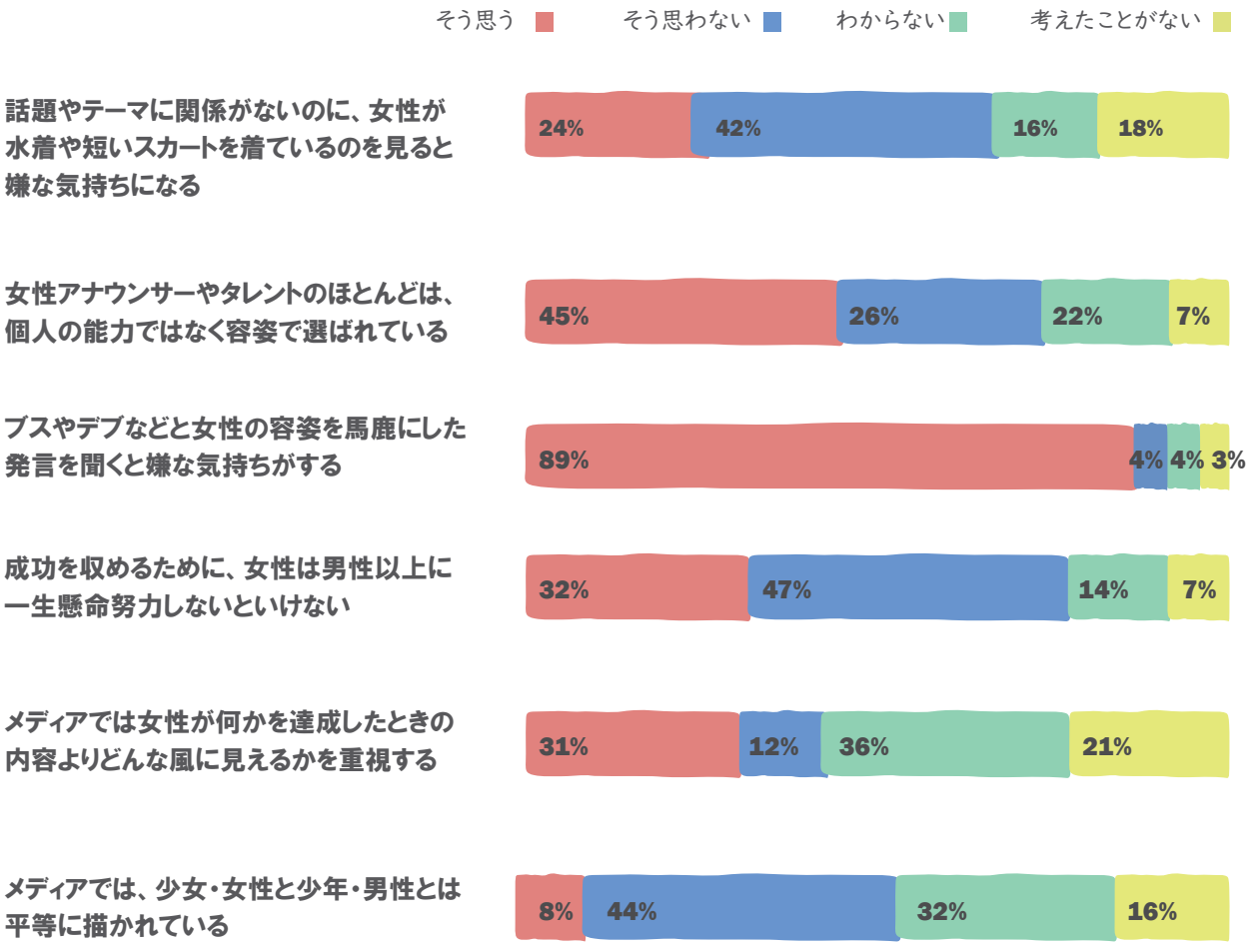
中学校女子の運動部活動への参加は、男子より3割低い

高校女子の運動部活動への参加は、男子の半数

内閣府 男女共同参画白書 平成30年度版「中学生・高校生の運動部活動参加率」より

5．メディアが与える影響

ここでは、メディアやインターネットに触れることで、どんなメッセージを受け取っているかを考えます。



メディアで男女平等に描かれていると思うのは、 8%

メディアやインターネットから受け取っているメッセージ

- メディアでは平等に描かれていないと感じている人が多く、どちらが雑に扱われるかとかではなく男女で区別されていると思っている人がいるのがわかる。
- 女性がなにかをするときに女性なのにという前置きがされたり、女社長、女人、女子アナ などと女性であることを強調する言葉が使われる。
- アイドルなどを応援していると年々スカートやズボンが短くピチピチになり、アイドル自身ががんばって下着が見えないように下げているのを見るととても嫌な気持ちで悲しくなる。
- アナウンサーはかわいい人や綺麗な人が多いイメージがあるが、高学歴な人も多く能力も高いのではないか。
- アナウンサーは視聴される側だから、美人がいいとされているのか。
- イメージからアナウンサー＝容姿がいいとなっているから容姿がいい人が選ばれている。
- スポーツ選手など「超美人選手」とかスポーツがすごいことよりも容姿を強調していることをよく見かける。そうゆうのを見ると女性がいかに容姿で差別されているかがわかり、とても不快に感じる。
- 容姿が関係ない話題でもいじられたり、容姿が優れているとされている方と比べられているのを見るととても嫌な気持ちになる。
- ほとんどの人が気にしているのに、なかなかなくならない問題
- おんな＝容姿という、メディアから植えつけられるイメージ
- 「容姿がよければそれでよし」という固定観念
- SNSで女性の投稿に性的なコメントがつくのを見ると、女性を性的に扱ってもいいと思っているかのようだ。

「わからない・考えたことがない」という答えが多いのはなぜだろう。

- 「メディアでは、女性が何かを達成したときの内容よりも、どんな風に見えるかを重視するか」という質問に「わからない」「考えたことがない」と回答したのは、合わせて57%。これは、半分以上の女子高校生がこの問題について関心がないということなのでしょうか。それとも、「メディアの男女の描き方に疑問を持っているが、それが具体的に何かということはわからない」ということなのでしょうか。
- 「考えたことがない」「分からない」と答えた人は、差別の意識がなく、気付いていない人がいるかもしれない。そういう場面に触れる機会が少ないからわからない人が多いのではないかと思う。
- わからないと答えた人が36%なのは女性自身も特に問題に感じていなかったり、番組や制作会社、タレントの所属事務所、記者が取れ高や注目されるためにおもしろくしたり加工したりしているのではないかと思った。

メディアが与える不安と期待

次のことについて、質問しました。

78% テレビでもっと多くの女子スポーツが放映されるとスポーツをする女の子が増える

64% テレビ番組の司会は、男女がバランスよく役割を分担すべきだ

63% 女の子や女性が犯罪の被害者になったとき被害者に落ち度があるようなコメントを目にする

52% 女性タレントや女性スポーツ選手が政治的なコメントをして叩かれるのを見ると発言したくなくなる

50% テレビなどで女性タレントに対するからかいを見ていると「私は有名になりたくない」と思う

35% メディアやインターネット、広告にある女性を性の対象としたり、露出の激しい女性の写真は表現の一つなので問題ない

とてもそう思う、まあまあそう思うと回答した割合

グラフを見て、話し合った高校生たちの「気になること」

私たちは、こう思う！

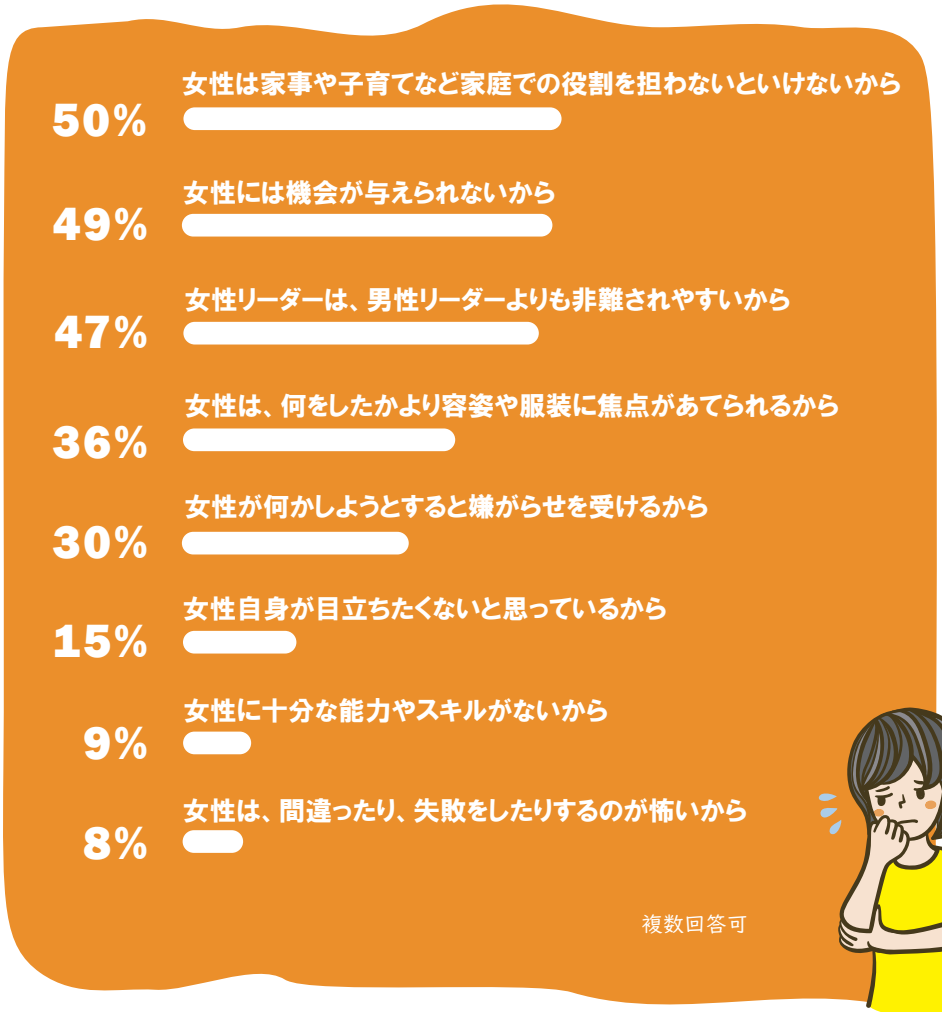
- スポーツは男性という概念があるのかなと思いました。
- スポーツなどは女性が取り上げられるときは珍しく、特殊なものとして取り上げられることがある。
- 男の司会者ばかり見かけるので、「司会というと男性」というイメージがテレビ番組を見ている人にはあると思います。
- スカートが短いから性行為されても仕方がないという報道がされます。男性の名誉を傷つけない為にそんな表現をするのかと思いました。
- 女性が性被害にあったとき、女性側に非があるコメントを目にする。そもそも、被害者なのに女性が悪いと言われるのはおかしいと思う。
- 女性は弱いというイメージが持たれているのか、女性には何をしてもいいし何を言ってもいいような風潮があると思う。また、反論されたり抵抗されたときに「女のくせに」などと言われる。
- やはり女性は内面で判断されづらいのかな。
- 細くないといけない、肌が綺麗じゃないといけない、女性はこうあるべきというメディアからのプレッシャーを感じる。
- 40代などは子育てをしているからテレビにいるイメージが少ないのでさらに容姿や年齢をいじられやすい。
- テレビや雑誌などで成功したときなどに女性であることを強調する「女性芸人」「女性議員」。
- メディアからの影響は人に、物凄い固定観念を与える要因になると思う。悪いことも良いことに対しても、影響力があると思う。例えば、男女の司会者を均等にする。女性アスリートもテレビに映る回数を増やすことは良いことだし、人に良いイメージを与え、考え直すチャンスになるが、逆に広告などで女性を性の対象としたり露出の激しい女性の写真を使うことは、昔からある固定観念にさらにマイナスの影響を与えてしまう。
- 女性がなにか発言すると厳しい意見が集まることがある。こういうのを見ると、女性が意見を言うことを良しとしない雰囲気が世の中にあると感じるし、女性は弱い、おとなしくあるべき、というイメージを求められている気がする。
- 現在のメディアでは女性を男性よりも低くみているのではないかと多くの人が思っていることがわかる。自分と同じように感じている人が多くいるのだと感じた。
- この結果からメディアに対する女性の扱いに不満を感じている人が多くいることが分かりました。これは管理職などに男性が多くいることに影響を及ぼしているのではないかと思います。メディアで女性に対する差別が多いのは作る側に男性が多かったり、ジェンダーに関する知識が少ないことなどがあるのかもしれないなと思った。

女子高校生調査2020　自由回答

6. 女性の指導者が増えない理由

日本のジェンダーギャップ指数が、153カ国中121位（2020年）である背景として、女性管理職が増えないことも一因にあげられます。女子高生たちは、「女性が男性に比べて組織のリーダーシップをとる立場につく人が少ない理由」をどう考えているのでしょうか。

リーダーシップをとる女性が少ない理由



私たちは、こう思う！

- 法律として会社や国会議員など全体の何割かは女性を入れなければならないというものを作り、女性でも立場が上になっても叩かれたりしない社会にしていけば良いのではないのか。

- 会社に子どもを預ける場所をつくって女性の負担を減らすこと。女性自身が、家事か仕事を選ばないといけないと決めつけることはいけないようにする。

- 女性だけでなく男性も育児休暇が取りやすい環境にする。手当などの賞与を出すなど。

- 男性に対して気軽に取得できる育児休暇を設ける。男性はどうしても働くというイメージが強いので育休が取りやすいといい。ただ制度を作るだけでは今まで根付いてきたことは変わらないので、育休をとった人に対して国から会社に補助を渡すなどをする必要があると思います。

- 男女の役割のイメージができてしまっていることも原因だと思うので、そういうイメージをなくす。
（男子はしっかりしている、女子はサポートするなど）

- 男性の育児休暇など、女性と男性で育児や結婚後に差が出ないようにする。

- まずは管理職に性別は関係ないということを知らせなければいけないと思う。そのために女性が管理職についている事例を共有することや、女性が管理職に就きやすい環境や雰囲気作り（産休や育休の制度など）が大切。

各分野の「指導的地位」に女性が占める割合

女性の割合が30%以下の分野

政治分野

都道府県知事	4%
国会議員（衆議院）	10%
都道府県議会議員	11%
国会議員（参議院）	23%

雇用分野

上場企業役員	5%
民間企業部長相当	7%
民間企業課長相当	11%

行政分野

国家公務員 課室長相当職	5%
都道府県本庁課長相当職	11%

教育・研究分野

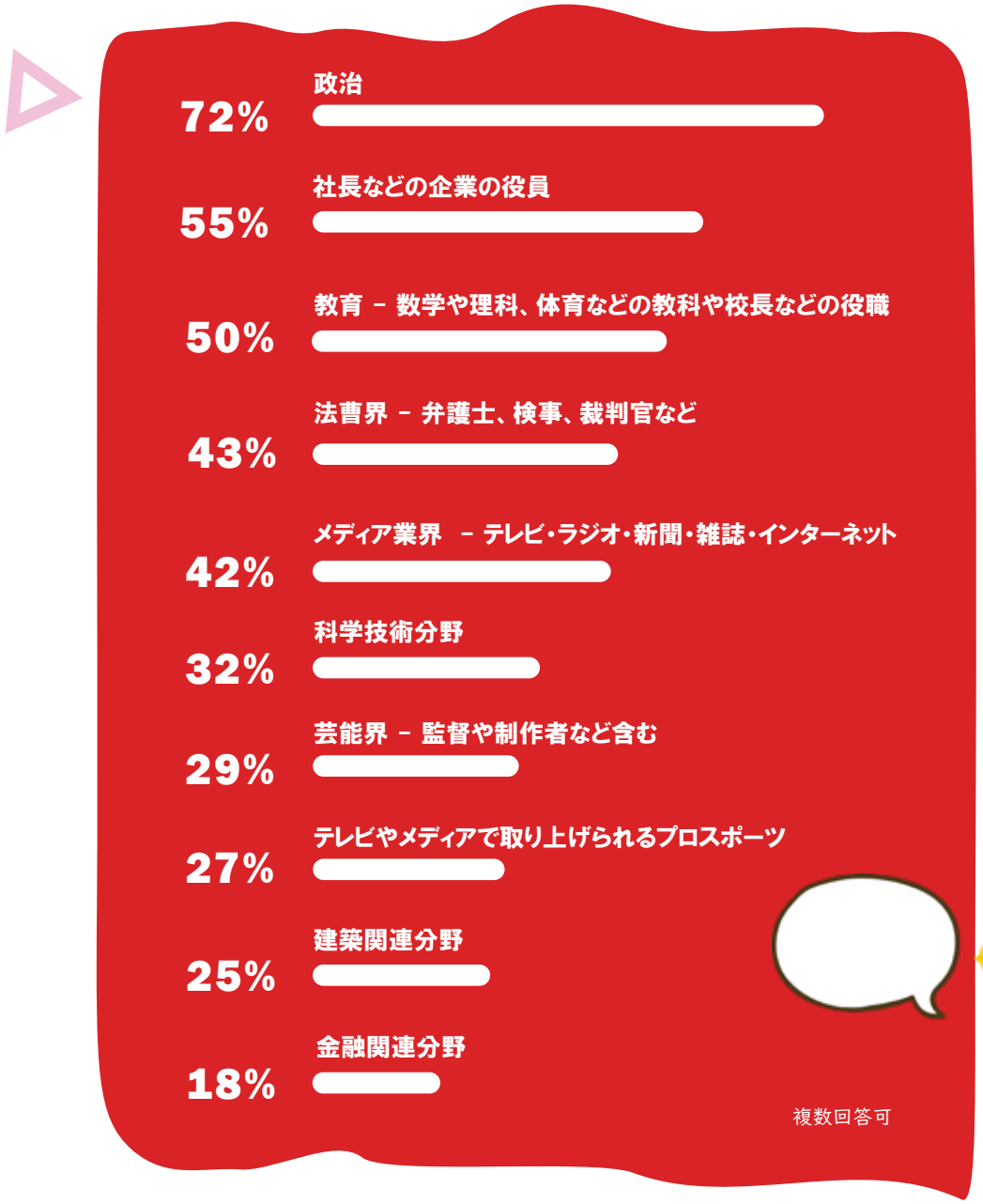
研究者	17%
大学学長、副学長、教授	17%
初等中等教育機関の教頭以上	19%

内閣府によると30%以上の分野は、
国家公務員採用者37%、国の審議会等委員40%、獣医師32%、薬剤師66%のみ

内閣府男女共同参画局 ひとりひとりが幸せな社会のために 令和2年度版データより

もっと女性の代表がいるといいと思う分野

次にあげる分野の内、もっと女性の代表がいると良いと思う分野はどれですか？



この調査を実施した2020年6月は、海外の感染症拡大のニュースが多く、海の向こうで女性指導者が率いる国の様子を目にしました。

10項目すべてを選択している人も多くいました。

また、男女で分けて考えるべきではないという回答も1割程度ありました。この自由記述には52%が回答し、関心が非常に高いことが感じとれます。

もっと女性の代表がいるといい思う理由

政治

- 政治には絶対もっと必要だ。女性は国民の半分も占めているのに、こんなにも女性の意見が反映されないのはおかしい。50/50であるべき。
- 女性の視点で政治をしてほしい、男女平等の社会にしてほしいから。性交同意年齢など、変えるべき法律がたくさんあるから。
- 世界の大統領に女性は珍しくないから。

企業

- 政治や企業役員は、働く女性の環境をととのえてもらいたいからです。
- 会社の代表者は男性の方が今は多いけど女性も増えることで他の女性社員のモチベーションとなり、社会的にもプラスな影響を与えられると思う。

教育

- 教育については学校の理系教科の先生や今までの校長先生はほとんど男性だったと思うから。
- 教育現場は、小さいときから女性も男性と同じ立場で働ける環境をみている方が良いと思いました。

法曹界

- 裁判官が性犯罪の被害者に対して被害者側にも落ち度があった等と発言していたのを見て女性の裁判官だったらもう少し被害者に対して寄り添った発言ができるのではないかなと思ったから。
- 男女でものの考え方も異なると思うから裁判官などはもっと女性の代表が増えるといいと思う。
- 法曹界は、女性の気持ち心情や心理をわかる方がいたほうが、ストーカー法なども早くできていたのかもしれないと思いました。

メディア

- メディア業界も、女性目線で不快に感じることなどを、とめる必要があると思いました。
- メディアやテレビを見ていて、政治家や研究者で取り上げられる方は男性ばかりだから。
- 女性がメディア業界の仕事で上の立場になれば、メディアでの女性を下に見るような発言や放送が少なくなるのではないかと思うから。

スポーツ

・スポーツにも女子プロはあるけれど、あまり取り上げられていないと感じるから。
・スポーツ選手や芸能人等はテレビでみる機会があるので女性の活躍が目に見て取れるようになると思う。

建築・科学技術

・建築関連や科学や技術分野で努力している女性はいるが、いたとしても目にする機会が少ないから。
・日本は男性だから女性だからという暗黙の了解のようなものが多いことに問題があると思う。これからの日本はそういった幼少期から刷り込まれる概念を取り払っていくべきだと思う。

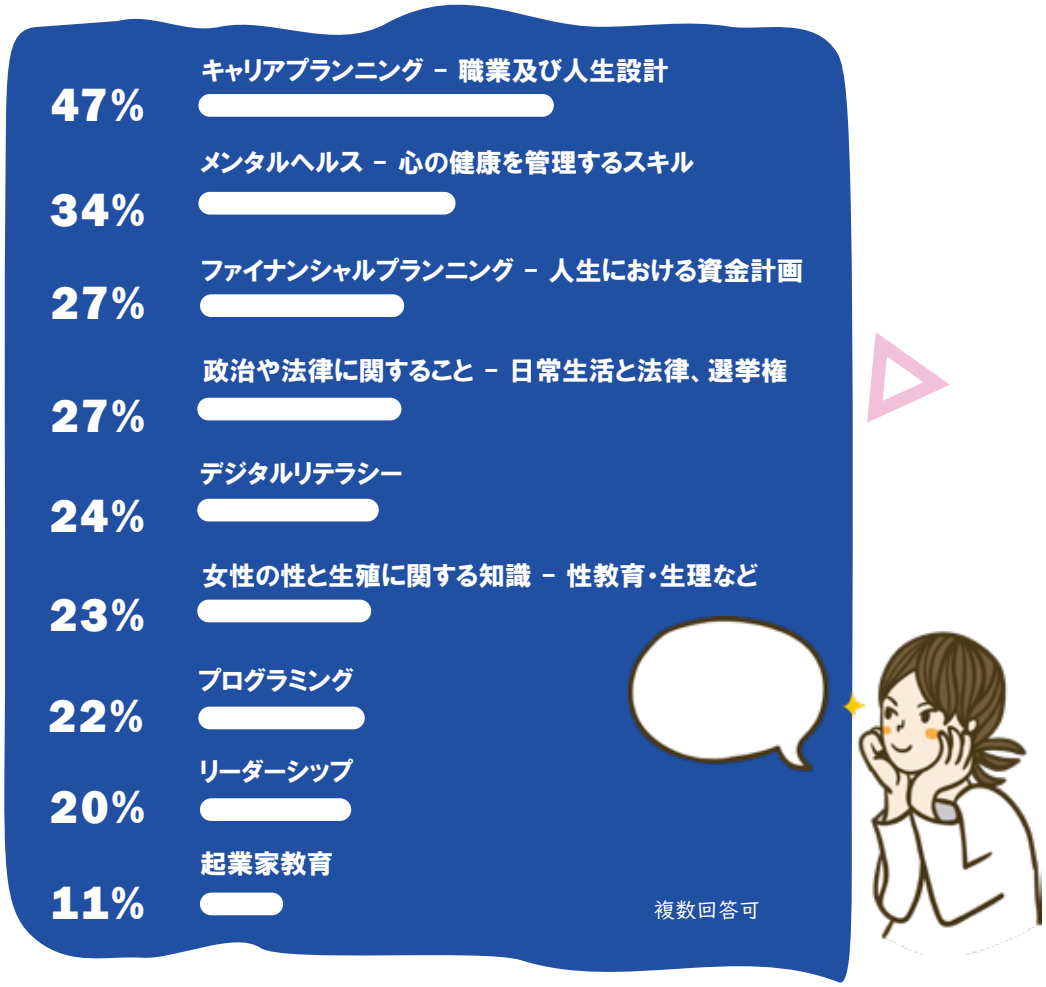
どんな分野でも！

・ジェンダーによる職業意識がやはり私たちの中には残っていると思うから、その意識を取っ払っていく必要がある。
・挑戦する意思のある女性がいるならば、どんな業界でも積極的に受け入れるべきだから。
・女性がトップに立てば挑戦することを諦めていた人も挑戦できる。
・代表が女性になることで今まで気付かなかったことにも気付き、新たな発展をしていくことができる可能性があるから。
・出来るだけ多くの人に、平等なチャンスや視点を与えられるようにしてほしい。
・偉業を成し遂げたときに「女性なのに凄い」と言われているのを感じる。
・女性目線での社会が見てみたい。

女子高校生調査2020　自由回答

7．もっと学びたいこと 考えたい、話したいこと

学校の授業で取り上げてほしいもの、あるいはもっと時間を増やして教えてほしいものはどれですか。



今後学校の授業で取り上げてほしいことについて尋ねたところ、半数近い47%がキャリアプランニングを上げました。女性にとって結婚や出産というライフイベントがキャリア形成により深く関係するため、早い段階から職業や人生設計について考える機会がほしいということなのではないでしょうか。

アンケートの最後の自由記述欄には
少女たち一人ひとりの疑問・不安・葛藤があふれていました。
また、アンケートに答えることで気付いたという声も多くありました。

- 普段男女差別について深く考えることはないけど、このアンケートなどをとおして思ったより差別はあるなと思いました。
- 自分では自覚がなかったが、男性の方が優れているという考えが少なからずあることに気付いた。
- 最近、私の母も「なぜ自分だけが家事をしなくてはいけないのか。」とよく言っています。母だけの仕事ではないので家族みんなで分担するべきなのに、おかしいなあと日々感じています。
- 古い固定観念が私にもある。日本の女性がいつまでも社会的に自立出来ないのは、やはり経済的自立が出来ないこと。
- 日本では家庭のやりくりを女性が多く担当している。
- コロナの休講期間中にジェンダーについてとても考えたことがあったのでこの場があって少し安心しました。
- 私自身ジェンダーや女性差別について考えることが多いが、考えているのは私だけではないと思えた。
- 今回の質問で「わからない」「考えたことがない」という答えばかりになってしまいました。
- 私が知らないだけで、差別を受けている人がいるということを今回のアンケートで初めて知りました。
- このことについてどう思う？と聞かれるとすごく難しいことで戸惑ってしまうので、ちゃんと自分の意見を言える場を設けてくださって嬉しかったです。
- アンケートに答えることで、今までしっかりと考えられなかったことを考えられたので良かったと思う。

女子高校生調査2020　自由回答

8．すぐにできる「社会をよりよくする行動」

「第5次男女共同参画社会基本計画」に、パブリックコメントを提出

2020年12月、「第5次男女共同参画社会基本計画[9]」が閣議決定されました。この案に対する意見募集（パブリックコメント）では、5,000件を超える意見が提出され、社会の関心の高さが見て取れます。20代の若い女性も非常に活発に議論し、意見を提出しました。

ジェンダーに関する女子高校生調査に携わった、9人の高校生も、政府に意見を提出しました。この5,000件のうち、10代の意見は全体の約1%でした。

この計画が、見直される5年後の2025年、日本の社会はどれくらい変わっているのでしょうか。

ジェンダー平等に向けた「計画」で、高校生たちが気になったこと

- 特に女性を中心として人材流出が続く可能性が書いてあるが、なぜそんな女性だけがその中心として人材が流出してしまうのか、理由がよく分からない。

- 今までの参画はあまり目標通りにいかなかった、期待通りにいかなかったとかいろいろ書いてあったが、その理由やこれからの具体的な計画の内容がちょっと分かりにくかったかなと思います。

- 男女雇用機会均等法等の関係法令や制度について、「学校等で男女の平等や相互の理解、男女が共同して社会に参画することの重要性等についての指導を通じて、制度等の趣旨の普及に努める」とあるが、高校生たちは、男女に均等な機会を与えるための取り組みを政府や企業がおこなっているか把握できていないと思う。すべての人がその制度について理解してもらう取り組みをおこなってほしい。

- 新型コロナウイルス感染症が流行するような非常時には、女性がより職を失いやすくなる懸念があると書かれていた。子どもの面倒のために辞めるなどが理由だと思います。しかし男性もテレワークをしているのに、なぜ女性が職を失いやすいのか疑問に思いました。やはり、まだ子どもは女性が子育てするというのがあるのかなと思いました。そこを解決していかないといけないなと思いました。

- 促す、促進する、図ると言う言葉ばかりで、具体的にどのような数値を目指し取り組むのかや、どこまで割合を上げたいなどがわからない。

9．男女共同参画社会基本法に基づき、施策の推進を図るための「基本認識」や「施策の基本的方向」「具体的な取組」を定めるもの

「社会をよりよくする活動」をやってみた高校生の感想

- 他の人と交流すると、自分一人では思い付かなかった考えを知ることができて視野が広がった。
- 私の学校では、女子は就職、男子は大学というのは昔のことだと思っていたが、他の人は言われると言っていて、とてもびっくりしました。また、私は共学なので女子校に通う人の意見を聞いて、共学では当たり前のことが女子校では当たりまでなかったり、女子校で当たり前のことが共学では当たり前でなかったりして、女子校と共学の違いからみえてくるものにとても興味がわきました。
- パブリックコメントというものを初めて知れたことも良かったし、どこかで行動を起こすのも大切だが、直接声を届けることが強い影響力を持っていると思う。
- 国が発表したものだから要望するところはそんなにないかなと思っていたけれど、読んでいくうちに「こうした方がいいじゃん」というところがあり、もっと意見を言っていこうと思いました。
- 政府の意見に、自分の考えを伝えるという行動にあらわすことができた。
- 行動を起こすことにより自分の意見の気付きを深めることができた。

すぐにできる「社会をよりよくする行動」

ジェンダー平等に向けて、毎日の生活で、一人ひとりができることがあります。

1. 友達と話をする

この報告書を読んで共感したこと、そして、自分とは違う意見がたくさんあったと思います。他の人と話すと自分と違った意見や感想が聞けたり、視野が広がるよいチャンスです！

2. 国や自治体の方針について知る

国や自分の住んでいる市区町村の男女共同参画に関する方針を調べ、読んでみましょう。都道府県・市町村が策定する女性活躍推進法推進計画は、内閣府 男女共同参画局のホームページで検索できます。

女性活躍推進法見える化

3. 意見を届ける

国、都道府県や市区町村でどんな取り組みをしていくのか調べ、自分たちの意見を届けましょう！！
政府はいつでも意見を募集しています。パブリックコメントの募集の時期に関係なく、ホームページから意見を送ることができます。

法務省　行政相談 きくみみ

内閣府　ご意見・ご相談

住んでいる都道府県や市町村でも、このような窓口があるはずなので調べてみましょう。

9. 変わるべきこと

当事者である少女たちがジェンダー平等実現のため700人の声をふまえ、もっとも解決すべきことを話し合いました。優先して取り組む問題とその対策について紹介します。

教育・学校

解決すべき問題

1. **固定観念や古くからある価値観にとらわれていること**
   例えば、掃除や洗濯など家のお手伝いをするとき女の子がすべきだという考え方が、今でも残っています。

2. **教師や保護者の「女の子だから」という考え方**
   「女の子だから大学に行かなくても地元で就職したらいいよ」などと言われることがあります。これにより子どもたちの行動を制限したり、機会や可能性を奪ったりしています。

解決の方法

1. **小さい頃からの教育**
   例として、小・中学校の幼いときから、看護師や大工など男女の比率に差がある職業についている人たちの話を聞く機会を授業で設ける。高校からでは遅すぎます。

2. **子どもたちを指導する立場の方々の考え方を変えること**
   PTAの集会などで、男女平等の大切さ、男女の能力に差がないことなどについて繰り返し伝え、これまでの固定観念や価値観を変えていくことが必要です。

3. **学校で、性別ではなく一人ひとりの個性が生かせるしくみづくり**
   学校は知識を身に付けるだけではなく、子どもたちの価値観を作る大切な場所。男女という性別や昔からの価値観にとらわれない場所であることが必要です。

メディア

解決すべき問題

1. 特にテレビ、新聞での男女格差や役割の違い

「司会者は男性」「アシスタントは女性」、「女性が家事」「男性は仕事」、日用品の広告に女性の方が多く起用される、新聞記事で女性よりも男性の方が多く取り上げられたり、取り上げられ方に違いがあるなど。

2. 容姿に対する批判

容姿に対して行き過ぎたいじりが多いです。たとえば、美人女優と女性芸人を比較し、体形や顔について必要以上にいじることなどがあります。

解決の方法

1. 制作者の意識改革

番組や新聞雑誌などの記事を作る人に、ジェンダーに関する正しい知識を身に付け、その知識を番組や記事を作るとき に参考にしてほしいです。ジェンダー専門家から研修を受けたり、どのような改善ができるのか制作者同士でディスカッションをするなどがよいと思います。

2. 男女に能力差がないことを広める

男性にはゲストから話を引き出したり、番組進行が上手な人が多いから、男性司会者が多いのではないでしょうか。彼らは長い間いろんな番組でそのようなスキルを磨き、経験を積んできました。今後、女性の司会者を増やしていくために、女性たちにスキルを磨く講座を開設し、育成していくとよいと思います。世の中には活躍している女性がたくさんいます。彼女たちを番組で特集したり、新聞や雑誌で取りあげたりすることを増やしてほしいです。

3. おかしい！と気軽に言えるしくみづくり

行き過ぎたいじりや番組内での男女の不平等など、視聴者が違和感を持った部分について、気軽に意見を直接伝えられるようなしくみが必要です。視聴者が番組の感想や違和感を持ったときに意見を伝えられるようなしくみを作り、広めてほしいと思います。

私たちが、教育・学校、メディアが大切だと思う理由

- 小さいときから当たり前だと教えられたことはそう簡単には変えられないと思います。生徒は先生がしていることは正しいと当たり前のように思っているので、先生が正しいジェンダーの知識を持っていなければいけないと思います。

- 生徒は先生を主な模範として行動したり、その人の考え方が価値観にも関わってきたりするので、教育の場でジェンダーを取り上げる場合、先生にも一度自分の価値観は正しいのか疑ってほしいです。

- 先生から言われた「男の子だから、女の子だから」という言葉で、無意識のうちに固定観念や性差別のようなものを植え付けられていると思うので、学校で生徒も先生もジェンダーについて考える時間を取ると良いと思う。

- この問題を解決するために私は学校でジェンダーについて考える時間を取ることが必要だと思います。固定観念を持ったまま生徒を教育し、またその生徒が大人になり子どもに同じような教育をしてしまうといった負の連鎖を断ち切ることができるのではないかと思います。

- 日頃見ているテレビ番組や雑誌・漫画・小説などの出版物で使われる表現、また、幼い頃保護者や学校の先生に言われた言葉により無意識のうちに性差別のような固定観念を植え付けられています。友達にジェンダーの話をすると「そういうものだと思ってたけど、改めて考えるとおかしいよね。」といった言葉を聞きます。このように、私たちは幼い頃から触れるメディアや受ける教育によってイメージが勝手に形成され、その考え方を根本から変えることはとても難しいです。

- スマートフォンをほとんどの人が持つようになった今、メディアでの影響力は大きい。男女共同参画を目指すのであるなら、さらに具体的な取り組み、目指す数値、割合が必要だと思う。例えば、すべての地方自治体に、今後の方針計画を提示してもらうなど。

- メディアでは、男性や女性の偏った見方が反映されていると思います。それは、メディアにいる管理職の割合がとても少ないことが原因のひとつです。

- メディアにおいては何かを取り上げるとき、性別によって分けるのではなく個人によって分けること、役割を平等に分けることが大切だと思います。

10. 私とジェンダー 生活をふりかえる

調査に関する活動をとおして、あらためて感じたこと、考えたこと

私は小学生の頃、家族の「女の子はこうあるべき」という考え方により、料理を作る手伝いをしたり、妹の面倒を見たり、ピアノ教室へ通ったりしていました。でも、髪の毛はいつも短く、ズボンをはいていて、学校の昼休みには女の子と室内でお絵かきしたり、話したりすることよりも男の子と外で走り回る方が好きでした。周りの女の子からは「男の子みたいだから」と言われ、仲間外れにされたこともありました。そんな生活の中で私は、「女の子はみんなこんなことしないと立派な大人の女性になれないのかな」「男の子と遊ぶだけで仲間外れにされるなんておかしいな」と長い間思っていました。

高校に入ってからは男子・女子関係なく、遊びに行ったり、テストの前にはみんなで助け合ったり、休み時間に一緒に体を動かしたりすることができて、とても楽しく過ごしています。私の友達の中には「このような環境が小さいときから当たり前だ」という人もいます。成長する環境や、いろいろなことを教えてくれる大人の考え方などから作られる固定観念によって、こんなにも世の中が過ごしやすくなるのだと高校に入って感じました。友達が育った場所のような、性別に関係なくみんなで楽しく生活できる環境が世界中で増えていってほしいと思います。

（18歳）

私の友達が通っている学校は新しい制服に変わることが決まりました。

女の子のズボン着用を許可することを求めた意見も出ましたが、最終的に男の子はズボン、女の子はスカートと決まりました。一方、私が通っている学校では女の子は自分の意志でズボンを着用するか、スカートを着用するか決めることができます。私は、男の子はズボン、女の子はスカートと決められてまとまりがあるのも素敵だけど、性別にとらわれず、自分の着たいものを着られる自由な雰囲気のこの学校に通えてよかったと思っています。「女の子だから」制服はスカートをはかないといけないなどといった考え方が改善されていったらよいと思います。

（18歳）

改めてジェンダーについて考えてみると文化や習慣によって、日本がすぐに改善できる点と長い年月をかけなければ改善することのできない点があることと感じます。例えば日本では広くおふくろの味という表現が使われます。この言葉に関して「“おふくろ”から母親がご飯をつくらなければならないということを助長する言葉だ」という意見があったり、「その言葉は文化や伝統からきた言葉なので男女差別ではなく懐かしい味という言葉の言いかえだ」という意見もあります。このようなことから、言っている人の意図、言われている本人の経験や気持ち（不安とか）も大きく影響していると思いました。

私たちが日々感じた差別を口に出したり話し合う機会をつくり、どのような社会になれば皆が幸せに生活できるのかも頭に入れ、ジェンダー問題に向き合っていければ良いと思います。

（16歳）

将来の夢を発表したときに、クラスの男の子がCAになりたいと言いました。

そしたら笑いが起こったんです。「男の子なのにCA?」と言った声が聞こえてきました。その子はみんなに笑われて恥ずかしそうでした。

これは、女の子はこうあるべき、男の子だからこう。と言った考え方があるからだと思います。

こういった問題に、目を向けて考えていくことが重要だと思います。このような日常のなかにある問題を解決することでよりよい社会になり、性別にとらわれず、生きやすくなると思います。

（17歳）

考察 ー「女の子だから」は可能性を奪う

何気なく使う「女の子だから」ということば。このことばが多くの少女たちの可能性を奪っていることが、今回の調査で可視化されました。家庭、学校、メディア、そしてインターネットなど社会のあらゆる場面で、「女の子なら〜して当然だ」「女の子はこういうものだ」と、属性によって一つの枠にはめられています。リーダーシップ、スポーツ、学習・進学を「あきらめ」、家事を「やらされ」、日常生活の至るところに「不平等・不公平を感じる」という訴え。「女の子だから」の自由回答の3割は「しなくてよい」ことがらとして、「力仕事」がその大半を占めました。

学校でジェンダー規範が再生産されている

学校でも公然と性役割分担がおこなわれています。「男女平等」「個性が大事」とされながら、「女の子だから」とひとくくりにされる日常。慈悲的で「特別扱い」する性差別は見えづらく、次第に少女たちの中に、「女の子だからこれぐらいでいいよね」という甘えの感覚が無意識に高まります。この状況に疑問を感じ不合理、疎外感や無力感を訴える声も聞こえます。「力仕事ぐらいいいじゃないか」という見方があるかもしれません。しかし、進路指導、役割分担、教科指導、行事の場面でも「女の子」という枠組みをはめられます。力仕事は将来の転勤や役職などに置き換えられていき、「大変だからしなくていいよ」という言葉がチャンスを奪っていることを見えなくするかもしれません。9割が「女子の大学進学や経済的自立は当たり前」とする一方、4割が「女子は家事や料理ができて当然」と捉えていたことは、「女性は仕事と並行して家事育児をこなして当たり前」という社会の雰囲気をすでに感じ取り、社会が「理想」とする役割を内在化しているのでしょう。

無意識でいることの怖さ

37%が教師の言葉がけにジェンダーの偏りを指摘しました。教師たちが生徒であったとき、学校生活では男子の役割・女子の役割がすでに出来上がり、それを疑う機会がない教師も多いのかもしれません。そうなのだとしたら、学校がジェンダー規範を再生産する場所になっているということです。教師が自分の無意識に向き合い、生徒への影響の大きさをふりかえる機会が早急に求められます。そして学校単位でなら、社会よりもずっと早く変化を起こすことができるはずです。**実際の理数系の学力が世界トップレベルであるのに、半数の少女が「女子は理系はできない」と判断していることは、個人にとっても社会にとっても非常にもったいないことです。**少女たちの力を伸ばすには、もう少し包括的な取り組みが必要のようですが、学校でできることはたくさんあります。

経験を重ねれば自信は高まる

「〜したかった」「〜できるのに」という声を聞くのは大変残念です。やればできることはたくさんあり、やらないと達成感は味わえません。**人は少し難しい課題に直面することで、挑戦や努力を重ね、失敗する経験も糧に、力を伸ばし、自信を高めていきます。**けれども、「女の子だから」という理由で制限をかける、つまり性別を理由に機会を与えないことが、女子の自己肯定感が低い理由の一つかもしれません。科学的には、性差は個人差ほど大きくないとされています。性差よりも個人差の方が大きい、つまり、男女は違うことよりも似ていることの方がずっと多く、本来男女の能力に差はありません。女性をひとくくりにせず、女性の中にもある多様性がもっと認められる日が待たれます。

メディアにおける女性像

少女たちは、メディアによる女性の扱いに明確に不快感を示しています。例えば、「リケジョ」「女子アナ」「女性医師」のように、女性であることをことさらに取り上げる表現が多くあります。また、実績や話す内容よりも容姿を重視した扱い、そして、女性が登用されず映らない場面、女性と男性の役割が対等ではない場面、女子をおもしろおかしく取り上げる場面などがあげられます。このようなことにより、**メディアが少女たちのこころに重大な影響を与えている現実をもっと深刻に受け止めるべきです。**

コロナ禍でより明らかになった「女性」がおかれている現状

コロナ禍は男性よりも女性により大きな影響を与えています。その原因に家事労働の負担や職種の偏りの大きさが指摘されていますが、この点について、「そもそもなぜそんな偏りがあるのか」「長期間放置されてきたのはどうしてなのか」という疑問を投げかけた少女たちがいます。そして日本のジェンダー格差是正の政策が不十分である社会に、近い将来出ていくことを憂慮しています。**少女たちは、女性に仕事の門戸は広がったものの、「家事も子育ても主に役割を担うのは女性である」というイメージにより、自分たちの将来を不安に感じています。**

ロールモデルを求める声

政治分野を中心に、各方面に女性指導者を求める声が非常に多く聞かれました。「もっと女性が活躍しているのを見たい」「違う景色が見たい」「女性の意見を取り入れた社会にしてほしい」という声の厚み・熱さには圧倒されるものがあります。その声の一つひとつは男性を中心に作られた社会のしくみに疑問を呈するものです。少女たちは明確に「ロールモデルがほしい」と言っています。**彼女たちのロールモデルになれるのは、彼女たちの少し先を歩いている女性一人ひとりです。**

知ることから変わる

今回の調査では、「おかしいと思っていたのは私だけじゃなかったんだ」「日本の男女差別がわかった」「自分にも偏見があった」と、多くの少女に気付きをもたらしました。一方で、そういったジェンダー規範が存在することに気付かない少女もいます。**考える・知る機会がないために、将来の選択肢が狭まったことにさえ気付かないことは不合理です。**誰もが、自分の人生を自由意思によって選択できるようになるためには、十分な知識や情報、対話の機会が提供されることが大切です。そうすることによって、自分に制限を加えず挑戦でき、可能性を伸ばすことができるのです。

世界各地のジェンダー格差解消の取り組みや、現在の社会構造を考える機会をすべての少女に与えることには大きな意味があります。例えば、クオーター制の導入の是非を考えるときには、海外の歴史や事例などを学ぶことです。**事実やデータを踏まえ、社会のしくみに対して関心を高めれば、問題の所在を自分たちで探求できるようになります。**このように、私たち大人は、事実やデータ、多様な意見も踏まえたうえで少女たちを支援したいものです。

そして、少女たちが望む社会に向けて、自分の違和感やモヤモヤを声に出すこと、一つひとつの声がベクトル（方向と勢い）を合わせれば、大きな声になることを実感できる機会、行動する機会を提供することがよりよい未来を創ります。

ジェンダー平等の実現には、社会のしくみと人々の意識、両方の変革が必要です。この二つの変革の機会を少女たちに与えれば、自信と希望に満ちた次世代が育ちます。**次世代を育てるためには大人も自分ごととして取り組み、社会の担い手として手本を見せることが求められます。**

あとがき

ある高校で生徒会主導によって「女子も男子もツーブロックOK」という校則を試行することになりました。係りの先生が作成したのは「男子対象」というちらし。そのちらしを見てNさんが質問すると、「女子は関係ないと思うけど」ということばが返ってきました。

ジェンダーのことを勉強したNさんはそのことに違和感を感じ、女子も含めるように訴えました。先生は、「女子がそういう髪型を好むはずがない」と返答しましたが、それに対してNさんは、「男子がこう、女子がこう、という決めつけはおかしい」「コマーシャルで男性が洗濯している姿があるように社会は変わってきている」などと先生に話をしました。まだ、ジェンダーで悩む生徒がいることを知っていたNさんは、ジェンダーについて先生に根気強く説明や交渉を続けました。その結果、先生はチラシに女子を含めるように変更してくれました。

以前の私なら、男子だけがツーブロックでも、何も違和感がなかった。
でも、今回それをおかしいと感じたり、先生に意見を言うことができたのは、
みんなとジェンダーについて勉強して自信を持てたから。

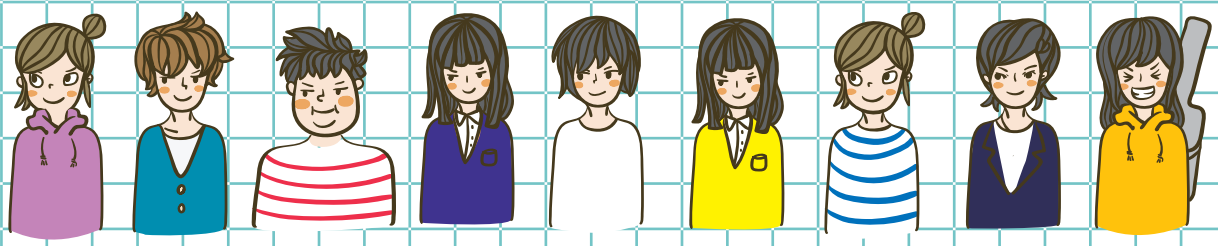
（18歳）

変化は起こります。
変化はあなたが起こすもの。
社会は変わります。
私たちが変えるもの。
自由意思で人生を選択できる社会。
「こんな仕事をしたい、あんな風に生きたい。」という一人ひとりの希望が叶えられる社会。
そのために私たちができることはたくさんあります。

これからの社会をつくるにはあなたの声が必要です。
あなたの声もその一つです。
みんなが声をあわせれば、集まれば大きな声になります。
あなたも声をあげましょう。
それは必ず社会を変える力になります。

100年かからなくても済むように、今よりも少しでもよくなるように自分が持っている力を使いましょう。
それを実行する人の数で、社会は前進します。

Stop the Violence委員会 女子高校生調査担当



発行：公益社団法人 ガールスカウト日本連盟

〒151-0066 東京都渋谷区西原一丁目40番3号
https://girlscout.or.jp/
この資料に関するお問い合わせ stv@girlscout.or.jp

2021年3月発行